

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
1	経済学部	2023/4/1	神崎直美	委員の委嘱、会議への参加;	相模原市教育委員会 相模原市文化財保護審議会委員	神奈川県相模原市	神奈川県相模原市	市域の文化財保護に関する会議、助言、調査など		0				
2	経済学部	2023/4/1	神崎直美	委員の委嘱、会議への参加;	大和市文化財保護審議会委員	神奈川県大和市	神奈川県大和市	市域の文化財保護に関する会議、助言、調査など		0				
3	経済学部 浅原ゼミ・井上ゼミ・タンゼミ・朴ゼミ	2023/5/17～2023/7/26	朴 美善	産学官連携、産学連携、官学連携;	「城西大学×飯能信用金庫」「地元商店応援プロジェクト」	埼玉県内（日高市、毛呂山町、北坂戸、高萩）	飯能信用金庫、埼玉県内の各市町の商工会・商工会議所	経済学部の4つ（浅原・井上・タン・朴）のゼミ（1・2年）がゼミ活動の一環として、産学連携協定を締結している飯能信用金庫の取引先である地元商店のプロモーション活動に取り組んだ。本プロジェクトは、プロモーションに弱みを持つ地元小規模事業者を対象に、学生さんが商店等を取材し、チラシを制作することで、地元地域の商店街の活性化に貢献することを目的としている。具体的には、プロジェクトに参加している学生たちは、グループごとに地元商店を取材し、大学生ならではの視点や発想力、表現力を活かして、各店舗の特徴や魅力を伝えるチラシ制作に乗り出した。チラシは各店頭での配布、飯能信用金庫の各支店や商工団体、大学のデジタルサイネージでの放映や配布など通して町の魅力を広く発信していく予定である。		130名程度	ポスター作成のグループワークを通じて協調性、主体性、計画性、責任感、創造力などを育む。商店主や飯能信金職員とのコミュニケーションを通じて、計画性、聞く力、伝える力、責任感などを涵養できる。	他者目線の重要性、協力・協創の面白さと難しさを学び、地域経済や経済学そのものへの関心を高められる。	チラシを作る技術的な難しさのみならず、グループ内の不真面目な人への働きかけ方や、大学外の社会人との連絡の仕方など、様々な葛藤から考え、相談し、動くことができた。	チラシ作成の条件をもっと整理して最初に伝える。画像のクオリティを上げるため、使用ソフトや提出時の画素数などの条件も定めるべき。提出の最終期限が企業との間で不明瞭だった。コミットが足りない学生に対して、教員からの働きかけが「作業中に」もっとできたかもしれない。成績の付け方についても、より具体的に前もって学生と共有すべき。
4	経済学部 経済学部「技術と社会Ⅰ」担当教員と履修生	2023/5/17～2023/6/14	朴美善	授業(学外で調査・活動);授業(地域の学習・研究);	飯能信用金庫パーパス動画制作	埼玉県内を中心とする飯能信用金庫の取引先	飯能信埼玉	経済学部では、「技術と社会Ⅰ」（担当教員：朴・増山・タン）の授業の一環として、産学連携協定を締結している飯能信用金庫と合同で埼玉県の自治体PRプロジェクトに取り組んだ。具体的には、該授業に参加している学生たちが主体的に「つながり続けることで笑顔になる」というコンセプトで地元PR動画（飯能信用金庫のパーパス）を制作した。パーパス動画の制作は6月中旬に完了させ、7月からは飯能信用金庫のホームページや飯能信用金庫の現況報告会、および同信用金庫各支店のデジタルサイネージなどに掲載されている。		9	動画制作を通じて主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ力などを育む。また、飯能信用金庫の担当者とのコミュニケーションや成果発表会を通じて、聞く力、表現力、プレゼン能力などを涵養できる。	飯能信用金庫の職員からの高い評価を受けて自信に繋がった。また、地域経済や金融機関の業務に感心が高まった。		
5	経済学部	2023/6/28	望陀 美美子	委員の委嘱、会議への参加;	第64回日高市都市計画審議会	日高市	日高市役所 都市整備部 都市計画課	日高市都市計画審議会 審議委員として日高市の都市計画について審議した。		0				
6	経済学部 神崎ゼミナールⅠ	2023/10/30	神崎直美	授業(学外で調査・活動);	学外授業・聖天院―異文化接触と融合の歴史を学ぶ―	日高市		大学近隣の特徴ある異文化接触と融合の歴史についての学習。ゼミで春学期にグループワークとして文献調査と発表を実施し、秋学期に現地に見学に赴き、理解を寄り深めた。当寺院は高麗王若光の霊廟があることが有名だが、天保年間に浅草浅草寺を模して建立された山門―雷門―もあり、近世寺院建築を実地見聞する格好の地である。	8	当地の異文化接触と融合の歴史、近世寺院建築への理解。	17と同	文献だけでは確認できない、現地だからこそ発見。		
7	経済学部 神崎ゼミナールⅡ	2023/11/13	神崎直美	授業(学外で調査・活動);	学外授業・高麗神社と聖天院―異文化接触とその融合の歴史を学ぶ―	日高市		ゼミナールⅡの最後のグループ学習「城西大学近隣における異文化接触」について、事前学習(文献調査と発表)で理解した知識を、現地を見学して確認、さらに現地ならではの発見を体験するために学外授業を実施した。見学地は高麗神社と聖天院である。見学はグループを単位で事前学習の成果を確認することとしたが、高麗神社の高麗家住宅については学芸員横田稔氏(ゼミ担当者の母校の後輩)が建物内を特別拝観の便宜を図ってくださった。古代の異文化接触と融合の実態について、両寺社を現地に赴き、歩き、見ることにより、真の理解を得ることを目的とした。	14	地域特有の異文化接触とその融合への理解を深める。	17	本来は2度にかけて見学すべき施設を、ゼミの回数の都合から1回で実施しなければならず、時間的制約が厳しい行程となったこと。		
8	経済学部	2023/11/22	望陀 美美子	委員の委嘱、会議への参加;	第65回日高市都市計画審議会	日高市	日高市役所 都市整備部 都市計画課	日高市都市計画審議会 審議委員として日高市の都市計画について審議した。		0				
9	経済学部 神崎ゼミナールⅡ	2024/6/26	神崎直美	授業(地域の学習・研究);	学外授業を実施	日高市		地域学習の一端として、本校校地南側の旧、多和田村を対象として江戸時代の信仰や日本の食文化を学習した。具体的には、多和田天神、石造物、さらに食文化の理解のために遊遊王国を見学した。ゼミで事前にグループワークとして文献から当地について学んだ知識を、現地を歩き現物を目にすることで理解を深めた。	14	大学近隣の江戸時代の信仰、食文化を歩き、見ることにより真の理解を深める。	17と同			
10	現代政策学部 地域活性化論	2023/6/7～2023/6/14	庭田文近	授業(地域から外部講師を招聘);	財務省関東財務局地域活性化サロンからの県内企業経営者の派遣	埼玉県	財務省関東財務局、㈱デリモ、㈱コマーム	財務省関東財務局の協力により、関東財務局が主催する地域活性化サロンに参加する埼玉県の企業の経営者を外部講師として派遣していただき、企業の地域貢献活動について講義していただいた。2023年度は、6月7日に㈱デリモ社長の栗田美和子氏、6月14日に㈱コマーム社長の小松秀人氏ほかにご担当いただいた。	30	17				
11	現代政策学部 地域政策	2023/6/23	庭田文近	授業(地域から外部講師を招聘);	日高市からの講師派遣	日高市	日高市	地域政策の授業において、日高市総合政策学部から職員を招き、日高市の市勢・課題・取り組み等について講義をしていただくとともに、日高市の政策である「子育て世帯に優しい政策」についてグループディスカッションを行った。	54	52				
12	現代政策学部	2023/7/6	飯塚智規	授業(地域から外部講師を招聘);公開講座等、地域へ向け	地域防災政策A	坂戸市		横浜の市民防災団体「防災塾だるま」と共同で住民向け図上シミュレーション訓練(J-DAG)を「地域防災政策A」の講義にて実施。		70				
13	現代政策学部	2023/9/1	飯塚智規	公開講座等、地域へ向けた講座;	TJUP主催公開講座2023「武蔵国の19校を通じて埼玉を知る」	坂戸市		同講座の「災害にソナエル」にて、「クロスロードゲームで学ぶ、私がやるべき災害対応」の講座を実施。		20				
14	現代政策学部 政策研究基礎B	2023/12/9	庭田文近	授業(地域から外部講師を招聘);	坂戸市役所からの外部講師の派遣	坂戸市	坂戸市	坂戸市役所交通対策課から職員（庭田ゼミOB）を招き、坂戸市の市勢・課題・重要政策および地方公務員の働き方や受験対策について講義をしていただいた。	220	215				
15	現代政策学部	2024/1/30	飯塚智規	公開講座等、地域へ向けた講座;	第12回 地域相互協力図書館合同主催公開講座	坂戸市		同講座にて「クロスロードゲームで学ぶ、私がやるべき災害対応」を実施。		30				
16	現代政策学部	2024/2/29	飯塚智規	公開講座等、地域へ向けた講座;	東松山市きらめき市民大学	東松山市		同市民大学にて「クロスロードゲームで学ぶ、私がやるべき災害対応」を実施。		20				
17	現代政策学部	2024/11/21	飯塚智規	授業(地域から外部講師を招聘);公開講座等、地域へ向け	地域防災政策B	埼玉県		埼玉県危機管理課と防災士協会の協力により、地域防災政策Bの講義にて避難所運営訓練(HUG)を実施。		70				
18	経営学部 ゼミナールⅠ(産学連携ネギ・米ブランディング)	2023/4/1～2024/3/31	辻智佐子	産学官連携、産学連携、官学連携;	産学連携ネギ・米ブランディング	鳩山町、川越市	ちはるふぁーむ、Tomozy's Farm、ここから武蔵コンソーシアム	地域産業の活性化を目的に、2023年度は武蔵コンソーシアムの助成を受けて、ちはるふぁーむ（鳩山町）とTomozy's Farm（川越市）と協働し、メニュー開発、情報発信、ブランディングにチャレンジした。春学期は3者間のコミュニケーションを図りつつ、まずは情報発信と経験をかねて「なないろハンドメイドマーケット」（川越市、6月）に出店しました。秋学期は、理論的な学習を踏まえ、鳩山クラフトフェア（鳩山町、12月）への出店しました。また、ゼミ活動の成果を都立高校でのプレゼンテーションを通して高校生にも情報発信した。	上記人数	20名	・学生たちがゼミ活動において実地経験を積むことができ、大学で学ぶ経営に関する理論に実践が加わることで学習効果が高い。・ちはるふぁーむとTomozy's Farmはともに地元の新規就農者であり、技術のみならず経営の側面からも新たな要素を吹き込み、地域の活性化に貢献している。将来性のある両者の活動に学生たちが参加し、今後さらに多くの人に知ってもらい事業を拡大していく上で、学生たちがコミットできることの意味は大きい。	学生たちによる主体的な意思や活動の育成。	ゼミ生によるチームワークの育成。	ブランディングにおける市場調査等の欠如。
19	経営学部 志田ゼミナール	2023/4/11～2023/6/21	志田崇	授業(地域の学習・研究)	坂戸市ごみ分別動画作成プロジェクト	坂戸市	坂戸市清掃センター	スマートフォンや電気シェーバーなどに使用されるリチウムイオン電池分別の啓発動画を作成。全国でリチウムイオン電池を原因とする火災が発生する中、市から発火事故の映像や廃棄物の分別一覧表などの提供を受けて取り組んだ。動画は1本5分ほど。ゼミ生が数名のグループごとにわかれて作成し、市の担当職員が審査員としてコンテンツ形式のプレゼンテーションを実施した。審査員からは「市が作成したアプリと自分たちの動画を組み合わせで解説し、市民にわかりやすい内容となっていてとても良かった」と称賛された。コンテンツ最優秀動画は、市の公式HP・YouTubeに掲載され、住民の環境意識の向上に貢献した。		40	環境経営への体験学習	ごみ分別における知識と市民の方への貢献体験	学生が得意分野である動画作成において学習とあわせ、市民に貢献できた	ごみ分別だけにとどまらず、他の分野でも検討していく
20	経営学部 石井ゼミ	2023/5/5	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	沖縄県宮古島市	狩俣自治会	城西大学、東海大学学生によるヒーローショーを実施。	0	2				

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数(全体)	参加人数(城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点	
21	経営学部 石倉ゼミナールⅠ	2023/5/20～2023/5/21	石倉恵介	産学官連携、産学連携、官学連携	イオンモール浦和美園店で開催された健康イベントに参加	埼玉県		健康イベントにおいて「ロコモを知ろう」と題し、ロコモティブシンドロームについての認知アンケート、簡易診断およびロコモ対策の運動を紹介した。	0	9					
22	経営学部 石井ゼミ	2023/5/27	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	城西大学北坂戸にぎわいサロン	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	27					
23	経営学部	2023/6/26	柴沼 真	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	朝霞市立第3中学校 総合的な学習の時間 キャリア教育講師	埼玉県朝霞市	朝霞市立第2中学校	朝霞市立第2中学校の総合的な学習の時間で実施されたキャリア教育の時間において講師を務めた。	250	0	中学生のキャリア意識の形成	中学生のキャリア意識の形成	中学校と連携することができた	他の中学生に対しても同内容の授業を展開し、大学での学びをPRしたい	
24	経営学部 石井ゼミ	2023/7/15	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	坂戸市	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	17					
25	経営学部 石井ゼミ	2023/7/29	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	坂戸市	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	27					
26	経営学部 石井ゼミ	2023/9/2	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	沖縄県宮古島市狩俣	狩俣自治会	宮古島狩俣集落にて、城西大学、武蔵大学の学生によるコラボヒーローショーを実施。	0	2					
27	経営学部 石井ゼミ	2023/10/8	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	坂戸市	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	17					
28	経営学部 石井ゼミ	2023/10/21	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	西坂戸団地	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	9					
29	経営学部 石井ゼミ	2023/11/11	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	鶴ヶ島市	鶴ヶ島市	鶴ヶ島産業まつりにて、城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	9					
30	経営学部 マネジメント総合学科 専門科目 キャリアデザインⅡ	2023/11/15～2023/12/13	篠原康男	授業(地域から外部講師を招聘);	授業内でのPBL学習「キャリア形成のプロセスに関するワーク(PBL)による課題解決案の提示)」～伊那市の人口を2050年までに15万まで増やすためにはどうすればいい?～」	伊那市	長野県伊那市より地域おこし協力隊、伊那市	経営学部の専門科目である「キャリアデザインⅡ」では、自分の人生を考えるうえで必要なこと、特に「動く」ということについて考えていくことを念頭に置いて授業を進めている。昨年度に引き続き、今年度も長野県伊那市地域おこし協力隊の小西徹さんにお越しいただき、「伊那市の人口を2050年までに15万まで増やすためにはどうすればいい?」というテーマでの課題解決型学習(PBL)に取り組んだ。学生たちは、小西さんからの伊那市に関する基礎的な情報共有をしていただいた後、各自が気になることについて小西さんに質問し回答してもらった。その後、各自で伊那市の課題を整理して解決案を考案し、企画書の準備を進めた。授業の12回目には、小西さんに来学していただき、学生が考案した解決案の企画書に関して、小西さんから講評をいただいた。	10	8	本事業では、外部講師に事前に課題となるテーマを出してもらい、その解決案を発表または提示し、その内容に対する講評と学生に向けたPBLを行う上での助言をしてもらうことを計画した。課題となるテーマで対象としている市の地域おこし協力隊として実際に「スポーツ健幸プロジェクト」に携わっている小西さんから、直接テーマや課題を提示してもらうことで、シミュレーションや机上の問題ではなく、実社会につながるPBLを行うことができると考えた。PBLの学習活動の中で、「キャリアをデザインする」ということに対して、学生の実践力や課題対応能力(重要な問題は何で、どの程度資源を投入するのか、課題を解決する思考プロセス、チーム活動での人間関係を円滑に保つ対応力など)の獲得が進むものと想定していた。		本事業では、事前に計画していた通り、外部講師に事前に課題となるテーマを出してもらい、その解決案を発表または提示し、その内容に対する講評と学生に向けたPBLを行う上での助言をしてもらった。課題となるテーマで対象としている市の地域おこし協力隊として実際に「スポーツ健幸プロジェクト」に携わっている小西さんから、直接テーマや課題を提示してもらったことで、シミュレーションや机上の問題ではなく、実社会につながるPBLを行うことができた。想定していた通り、「キャリアをデザインする」ということに対して、学生の実践力や課題対応能力(重要な問題は何で、どの程度資源を投入するのか、課題を解決する思考プロセス、チーム活動での人間関係を円滑に保つ対応力など)の獲得がより進んだものと考えられる。	PBLについては、大学の授業内で行われることが多いものの、実際に社会の中で問題や課題となっていることを対象に行われるケースは少ない。昨年に引き続き、長野県伊那市の地域おこし協力隊として活動されている小西さんおよび伊那市にご協力いただくことができ、現実の問題や課題として認識して、PBLに取り組むことができた。学生たちにとっては、小西さんからの伊那市に関する情報共有や現状確認を踏まえた上で、課題解決案を考案して企画書を提出し、その反省点も含めた講評をいただくという、貴重な経験ができた。社会人として仕事に従事する前に、重要な問題は何かや、特に課題を解決する思考プロセスに関する能力を高めることにもつながったものと思われる。	解決案については、オリジナルのあるものを提示できたものの、そこに至るまでの流れや根拠資料の提示など、企画書でしっかりと伝えることができていなかったように見受けられた。今後PBL学習を進める際には、解決案の考案だけでなく、そこに至る論展開に特に力を入れて指導しつつ、資料作成までのスケジュールについても、適宜指導していく必要があると感じた。
31	経営学部 石井ゼミ	2023/11/19	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	毛呂山市	毛呂山市	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	17					
32	経営学部 石井ゼミ	2023/12/3	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	坂戸市	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	17					
33	経営学部 石井ゼミ	2023/12/22	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	坂戸市	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	17					
34	経営学部 石井ゼミ	2023/12/23	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	坂戸市	城西大学北坂戸にぎわいサロン	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	18					
35	経営学部 城西大学起業研究会	2024/1/23～2024/1/23	関口 晃毅	クラブ・サークル等の活動	脱炭素まちづくりカレッジinひだか	埼玉県	城西大学起業研究会	起業について勉強をしたり、イベントに参加する	30	2	SDGsや脱炭素について学ぶ	ゲームを使って楽しく学べた。普段会えないような企業さんとお話できた。	積極的に話しかけに行くことができた。SDGsについて学ぶことができた。	ゲームのルールが少し難しかった。	
36	経営学部	2024/2/18～2024/2/18	柴沼 真	公開講座等、地域へ向けた講座	湘南ベルマーレフットサルクラブ 部活動地域移行推進プロジェクト	神奈川県松田町	神奈川県松田町	「育成年代にトレーニングをする時に意識したいコツ」について、地域移行を控える地域のサッカー指導者たちに講義とディスカッションを行う。	10	0	ただし湘南ケーブルテレビネットワークで放送予定	部活動の地域移行における地域指導者のスキルアップ	指導者との積極的なディスカッション	多種目のスポーツ同士やと交流できた点	特になし
37	経営学部 石井ゼミ	2024/3/30	石井龍太	授業(学外で調査・活動)	ヒーローショー	日高市	日高市	城西大学学生によるヒーローショーを実施。	0	8					
38	理学部化学科	2023/4/1～2024/3/31	石黒直哉	産学官連携、産学連携、官学連携、研究、授業(地域の学習・研究)	修士研究	福井県越前市	越前市立白山小学校など	福井県越前市に生息する希少種のの生息地調査を、小・中学校の環境教育として行うために、モバイル型のリアルタイムPCR装置を用いた簡便迅速な環境DNA検出技術の確立を目指している。本年度はアベサンショウウオ(絶滅危惧種ⅠA類)を対象とし、抽出方法の簡便化を図った。KANEKA簡易抽出法のマニュアルから高温処理をする過程を除いた方法でも、従来法と遜色ない結果を得ることができた。高温処理過程を省くことで現場での労力軽減、時間短縮につながると考えられる。		1					
39	理学部化学科	2023/4/1～2024/3/31	石黒直哉	産学官連携、産学連携、官学連携、授業(地域の学習・研究); 授業(学外で調査・活動)、研究	卒業研究	茨城県	茨城県	ツクバハコネサンショウウオ(絶滅危惧種ⅠA類)は筑波山地のみに生息している。本種の踏査調査は困難であるため、環境DNA分析がその補完となり得るように、茨城県からの委託研究として行っている。しかし、本種の微量のDNAを下水域で捕集するには困難を伴っている。本年度は、海綿や脱脂綿といった捕集材を用いたバッシブサンプリングを行い、比較した。その結果、改善の余地はあるが脱脂綿を用いた捕集に可能性を見出すことができた。		1					
40	理学部化学科	2023/4/1～2024/3/31	石黒直哉	産学官連携、産学連携、官学連携、授業(学外で調査・活動); 授業(地域の学習・研究)、研究	卒業研究	埼玉県	国土交通省関東地方整備局、荒川上流河川事務所、武州ガス株式会社、埼玉県生態系保護協会	これまでの研究で、埼玉県のレッドデータブックにおいて絶滅危惧種ⅠA類に指定されているホトケドジョウの生息地が明らかになりつつある。大学周辺の貴重な生息地を対象に採水時期による検出感度の比較を行った結果、最適な採水時期は春から初夏にかけてであることが示唆された。		1					
41	理学部化学科	2023/4/1～2024/3/31	石黒直哉	産学官連携、産学連携、官学連携、授業(学外で調査・活動); 授業(地域の学習・研究)、研究	卒業研究	滑川町	滑川町	滑川町の谷津沼農法は2023年1月に日本農業遺産に登録されたが、世界農業遺産の登録は叶わなかった。認定の必須基準の一つには「生物多様性及び生態系機能」という項目があり、これらの現状把握が必要になる。そこで、環境DNAメタバーコーディング手法を用いて滑川町の4つの谷津沼について魚類相の把握を試みた。管理地内の谷津沼にはコイ(飼育型)を除けば在来種のみが検出された。一方、人が容易にアクセスできる谷津沼には、特定外来生物を含む多くの外来種が検出された。4つの谷津沼を比較しただけでも各沼で独自の生態系を形成していることがわかった。したがって、谷津沼の生態系の維持には沼ごとに適した取り組みを考える必要があるだろう。		2					
42	理学部化学科	2023/8/4～2024/2/20	石黒直哉	委員の委嘱、会議への参加	毛呂山町環境保全審議会	毛呂山町	毛呂山町	2022年に表明した「山並み連携ゼロカーボンシティ共同宣言」に基づき、2050年二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて気候変動問題に対する施策の総合的かつ効率的な推進を図るため、有識者などにより構成された審議会において、「毛呂山町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定した。	16	0					
43	理学部化学科	2023/10/17	石黒直哉	産学官連携、産学連携、官学連携、公開講座等、地域へ向けた講座	希少野生生物の保全及びモニタリング活動	福井県越前市	里の森里来、合同会社ローカルSDクレーション	①アベサンショウウオの環境DNAによるモニタリング方法 ②生息環境保全及び整備に関する助言 ③保全活動意見交換会(小学生及び活動団体質疑応答ほか)	30	0	希少生物保護の重要性、郷土愛、SDGs	毎年学外活動の一環で環境教育として行っている。アベサンショウウオについて積極的に聞いてくる子や、大人達から聞いていて既に良く知っている子もいて、児童らの多くはとても楽しそうにしていること。	もっとわかり易く説明できないかと常に考えている。		

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
44	理学部化学科	2024/2/29	石黒直哉	産学官連携、産学連携、官学連携;公開講座等、地域へ向けた講座	環境DNA分析による希少野生生物のモニタリング研修	福井県越前市	越前市コウノトリが舞う里づくり推進協議会、水辺と生き物を守る農家と市民の会	越前市白山地区で地域住民と共に長年に亘って行って来た環境DNAを用いたモニタリングに関する勉強会である。本年度は、埼玉県滑川町のため池で行った環境DNAメタバーコーディング手法に関する説明と展望を話した後、越前市での展開について議論した。	15	0				
45	理学部化学科	2024/3/21	石黒直哉	産学官連携、産学連携、官学連携;委員の委嘱、会議への参加	ここから武蔵コンソーシアム 第27回地域連携ワークショップ	埼玉県		宇宙・産学官・地域連携コンソーシアムは、近隣の自治体、大学および企業等が連携し、地域が抱える様々な課題に対する解決策を協議・実現する活動を支援することにより、地域の振興と発展に貢献することを目的としている。このため、会員間で課題を共有し、有志会員で構成するチームが課題解決のためのプロジェクトを形成し、実施することとし、このような活動成果および情報共有の場として、適宜、地域連携ワークショップを開催している。	30	0				
46	薬学部 薬学啓発委員会	2023/8/6	袁 博	委員の委嘱、会議への参加;小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動;	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～	関東	独立行政法人日本学術振興会	2023年8月6日（日）、本学薬学部において、2023年度ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI「天然物の宝物さがしの旅～新しい抗がん薬を見つけるかなあ？～」が開催され、応募のあった高等学校（1～2年生）の生徒さん4名とその保護者2名が講義と実習を体験した。本プログラムは、独立行政法人日本学術振興会の採択を受け、研究代表者の薬学科 袁博教授と医療栄養学科 菊地秀与准教授の研究グループが中心となって、コロナ感染症拡大防止の観点と生徒さんの理解度並びに使用する機器やスペースを考慮した上、ほぼマンツーマンで実施した。実施当日、21号館1階にて、夏目薬学部長の開会挨拶の後、科研費の説明および研究テーマと実験プログラムに関連した講義を行い、21号館5階の薬品作用学研究室と16号館5階の薬物療法学研究室で主に体験実習を実施し、参加者より有意義であった旨の回答を頂いた。	20	6		ほぼマンツーマンで実施できた。		
47	薬学部 薬学部生涯教育講座	2023/10/28	木村 光利	公開講座等、地域へ向けた講座;	第63回薬学部生涯教育講座	関東	共催 日本薬剤師研修センター、城西大学薬友会、城西大学同窓会 協賛 日本薬学会、埼玉県薬剤師会、埼玉県病院薬剤師会、日本女性薬剤師会 後援 城西大学父母後援会、城西だ学薬学協力会、TJUP	10月28日（土）、22号館の大講義室（404教室）にて、第63回生涯教育講座が開催され、130名を超える埼玉県内外より参加者があった。薬学部生涯教育講座では、薬剤師、管理栄養士、薬科学技術者が関わる医療や社会に関連したテーマを取り上げ、医療従事者の生涯教育の向上に鋭意取り組んできた。今年度は、本薬学部が創立50周年を迎えたことを記念して、本講座を「薬学部創立50周年記念講演」として開催する運びとなった。 今回の本講座では、薬学部3学科に所縁のある3名の先生を演者としてお招きし、これまで城西大学薬学部が築いてきた薬学教育の足跡を振り返るとともに、社会の変遷に取り残されることのないようたゆみなく歩み続ける本学薬学部3学科のこれからの未来像についてご講演頂いた。各講演後には、沢山の質問があり活発なディスカッションが行われ、終了後の聴講者アンケートから、どの講演も有意義であった旨の回答を得た。	132	9	今後の活動に役立つ	創立以来からの本学部の軌跡が理解できた		
48	薬学部薬学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2023/6/28～2023/10/22	村田 勇	公開講座等、地域へ向けた講座;	模擬患者養成講座	埼玉県		4 大学連携科目であるIPW演習（緩和医療学）における新規模模擬患者の養成	22	0	IPW演習（緩和医療学）は、IPW実習の前段としての多職種連携のための態度や技能を試す場として設置されている。この演習をより現場に近づくよう模擬患者の養成を行い、学生の態度や技能をより高度に習得をさせるものとする。	新規の事例2つに対応できる模擬患者が養成できた。実際に学生の演習に参加した模擬患者さんは学生に教育的な配慮する態度で接していた。	これまでの模擬患者の数は、5名であった。それを演じることが可能なメンバーを増やすことができた。	7つの事例に対応できるように模擬患者を養成したい。
49	薬学部薬学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2023/10/22	堀井 徳光	公開講座等、地域へ向けた講座;	彩の国連携力育成プロジェクト第6回『緩和ケアIPW（多職種連携）研修会』	埼玉県	埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学、埼玉県内専門職団体（本研修会では、埼玉県医師会、埼玉県看護師会、埼玉県薬剤師会、埼玉県管理栄養士会、埼玉県理学療法士会、等）	緩和ケアにおいて“患者さんの生活の質”、“ケアの質”、“医療の質”を高めるためには多職種連携（専門職連携）が必要とされている。平成24年度から埼玉県内4大学（埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学）と埼玉県とが取り組んで来た「彩の国連携力育成プロジェクト」が開発した教育プログラムを用いて、埼玉県内の専門職の“連携力”の育成を目指して研修会を開催した。	27	0	緩和ケアに特化した利用者中心の統合されたケアを創造するための「利用者・地域の問題解決プロセス」の模擬的多職種連携演習を通して、緩和ケアにおける「チーム形成」、および「組織や機関間・地域連携」にも意図的に目を向け、より良い緩和ケアIPWの方法やあり方を考える機会とし、今回の研修会には、オンラインによる遠隔で実施することから、特に「オンラインによる遠隔」と「対面」の「やりとり（連携）」の違いについても考える機会とした。	例年に引き続きオンラインで実施した。本研修会の目的の一つ、「後輩指導のために現場の意欲を高める」についても理解していた。	運営としては、オンライン演習は、特に滞りなく実施できた。参加職種についても大きな偏りはなく実施できた。	一部の参加者がカメラOffであったため、コミュニケーションがとりにくかった。との意見があった。今後は参加者の設定を事前に周知する必要があると考えられた。
50	薬学部薬学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2023/12/1	村田 勇	授業(地域の学習・研究);	彩の国連携力育成プロジェクト「IPW演習（緩和医療学）」	埼玉県	埼玉県立大学、埼玉医科大学、日本工業大学	模擬患者を活用し、「がん終末期の患者の、身体的・精神的苦痛を和らげるにはどうしたらいいか」「患者の家族のフォローはどうすればいいのか」4大学から異なる分野（医学、理学療法、薬学、薬科学、医療栄養）の学生がオンラインにて集まり、連携してよりよいケアプランを考える。	225	32	チーム形成、グループワークおよびマネジメントの模擬的実践を目的とし、演習を通じて緩和ケアに対する意識が高まるだけでなく、様々な学部の学生と議論を重ねることで、自分の専門領域の可能性がさらに広がることも期待できる。また、今年度は遠隔での多職種連携教育の特徴を明らかにし、臨床の場に活かすことを目標としている。	複数の学科（医療系を中心とする）の学生が患者の気持ちを汲み取り、それぞれの患者の気持ちに即した議論できた。またその議論の要点を把握し発展することができた。	オンライン演習で培った技能を、対面形式で実施することで、オンライン演習との違いや実際の医療現場における連携活動の難しさび気付けたこと。また、演習後に個人またはチームのリフレクションが実施できたこと。	模擬患者さんへのインタビュー時間を増やすこと。模擬患者さんの演技は、現場のリアリティを追求した振る舞いだったが、学生に理解されやすく、演習にふさわしい振る舞いにする。
51	薬学部医療栄養学科	2023/4/1～2024/3/31	君羅好史	クラブ・サークル等の活動;	Smile up caffe	埼玉県入間郡越生町		越生町の梅農園・山口農園において学生たちが「Smile up caffe」と名付けたフンドイカフェを運営しています。学生自身がメニューを考案・調理し、一般のお客様に提供するという一連の流れを通じて、栄養や食品、調理について実践的に学ぶ場となっています。	20	20	栄養と食に関する知識向上と経験が得られる	献立作成技術の向上、衛生管理技術の向上		カリキュラム上、参加学生の予定を合わせる事が困難
52	薬学部医療栄養学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2023/4/1～2024/3/31	古屋牧子	公開講座等、地域へ向けた講座	職能団体と4大学のIPWカフェ	埼玉県	県内専門職（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、等）	2018年度から県内職能団体の方々と埼玉県における「連携力の高い人材育成」を目指した意見交換会の職能団体からの意見として、多職種の現職者同士でミニレクチャーを交えた会話を、業種を越えてコミュニケーションを楽しむ会としている。気軽に参加できることをコンセプトにZoom等オンラインツールを用いた遠隔にて開催した。	137	11	様々な専門性を持つゲストスピーカーによるミニレクチャーにより、異なる分野についての学びを深めることができた。日常業務における困りごとなどについて、専門職同士が意見交換することができた。また、医療や福祉の現場について深く知ることができ、大学教職員にとって良い学びになった。	回を重ねることに気軽な交流ができるようになった。ゲストスピーカーの許可が得られた際に学生参加を積極的に促したことから、学生の参加が増えた。運営方法をシステム化したこと、実施回数を全6回から4回としたことにより、運営負担が軽減した。	現在は大きな課題はなく、今後も継続実施予定である。今年度は全国からの参加者や学生の参加が増加した。次年度はさらに広報を充実させる。	
53	薬学部医療栄養学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2023/4/1～2024/3/31	古屋牧子	委員の委嘱、会議への参加	大学間連携運営連絡会議（全8回）	埼玉県	埼玉県立大学、埼玉医科大学、日本工業大学、埼玉県（保健医療政策課）	彩の国連携力育成プロジェクト事業に関しては、埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学および埼玉県が協定を結び、埼玉県の保健医療福祉専門職を中心とした連携力の育成を目指した取り組みである。この会議では月に一度4大学の教職員が一堂に会し、今後の事業や実習、演習等について意見を出し合い情報を共有している。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、Zoom等を用いて遠隔にて8回開催した。	214	0	月1回のペースで大学間連携運営連絡会議を開催することにより、様々な事業や実習等を円滑に運営することができた。また、各大学の状況等についてタイムリーに情報共有することができた。	昨年度に引き続き、オンラインでの実施ということで移動時間がなくなり、本学からの参加者が増え、本学としての意向が伝えやすかった。	オンライン開催であったが、特に問題はなかった。次年度は交流を深める目的で、対面での開催を数回取り入れることを検討している。	
54	薬学部医療栄養学科 研究会	2023/4/10～2023/11/18	小口淳美（株式会社フォーラル、調剤薬局）	産学官連携、産学連携、官学連携;	第17回薬局管理栄養士研究会 - 積極的な活動の発信・アウトプットで、成果の見える化をしよう -	全国	株式会社フォーラル、調剤薬局等	薬局管理栄養士研究会は、「保険薬局（以下、薬局）やドラッグストア（以下、DgS）に勤務する全国の管理栄養士が情報交換と相互の連携を図ること」を目的に2006年に発足した。専門職種・業種の枠組みにとられず、連携と親睦を促進し、薬局管理栄養士の活動支援や発展および育成に必要な情報収集・発信、意見交換などを活発に行うこととしている。毎年1回の研究会を開催を継続し、2022年には17回目を迎えた。第17回薬局管理栄養士研究会は、前年同様に城西大学坂戸キャンパスを配信会場としてオンライン（Zoom）にて開催したので報告する。	177	5	専門職種・業種の枠組みにとられず、連携と親睦を促進し、薬局管理栄養士の活動支援や発展および育成に必要な情報収集・発信、意見交換などを活発に行った。	専門職種・業種の枠組みにとられず、連携と親睦を促進し、薬局管理栄養士の活動支援や発展および育成に必要な情報収集・発信、意見交換などを活発に行うことができた。	参加人数を数百名に拡大したい。	

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
55	薬学部医療栄養学科 食毒性学研究室	2023/4/26	和田政裕	委員の委嘱、会議への参加	第105回コーデックス連絡協議会	全国	消費者庁、厚生労働省、農林水産省	わが国のコーデックス委員会における今後の活動について諮問を受けるとともに、現在開催中のコーデックス委員会において検討されている議題について報告を受け、その内容に関する質問ならびにわが国の食品関連行政への対応について議論する。	全国に対し Youtubeによりリアル配信	0	食品関連行政への理解	食品輸出入検査・認証制度、食品表示、食品残留動物用医薬品、栄養・特殊用途食品	わが国の食品関連行政への協力	
56	薬学部医療栄養学科 卒業研究	2023/6/1～ 2023/9/10	平岡翔太・ yv20075	研究;	食育に貢献する小規模ぶどう農園をめざしてーリーフレットの作成ー	茨城県小美玉市		日本の農業経営は、家族単位あるいは一人で営む小規模農業の割合が非常に高い。小規模農業は、日本を含め他の先進国においても、食料生産の主要な農業形態となっており、経済効果や特産品の生産のみならず地域の雇用の創出といった側面でも重要な役割を担っている。近年、日本の小規模農業は、健康や食へのこだわりを持つ人々の増加により注目されている。健康日本21（第二次）の最終評価によると日本の果物摂取量は依然として低く、果物摂取量の増加を促す食育活動が必要である。そこで、茨城県小美玉市に位置する小規模ぶどう農園『グレープガーデンやま』のリーフレットを作成し、その取り組みを通して「食育に貢献する小規模ぶどう農園」の活動について考察した。	30	1	小規模ぶどう農園『グレープガーデンやま』のリーフレットを作成し、その取り組みを通して「食育に貢献する小規模ぶどう農園」の活動を提案する。	小規模ぶどう農園『グレープガーデンやま』のリーフレットを作成し、その取り組みを通して「食育に貢献する小規模ぶどう農園」の活動について考察した。	小規模ぶどう農園『グレープガーデンやま』のリーフレットの作成を通して、事業者のサポートができた点	詳細なアンケート調査等が実施できたら、なお良かった。
57	薬学部医療栄養学科	2023/6/1～ 2023/6/7	真野 博	研究;	ときがわ 食と栄養プロジェクト (Tokigawa-Study)	比企郡ときがわ町	ときがわ町	埼玉県比企郡ときがわ町の住民を対象に、健康増進と健康寿命の延伸を目指した研究。保健センターで実施される健康診断を受けた方々を対象に、食習慣と生活習慣に関するアンケート調査を行い、健康診断の場で、管理栄養士の大学院生と教員による健康食育教室を開催した。		7				
58	薬学部医療栄養学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2023/8/22～ 2023/8/25	古屋牧子	授業(学外で調査・活動)	彩の国連携力育成プロジェクト「IPW実習」	埼玉県	埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学、埼玉県	彩の国連携力育成プロジェクトで実施運営している彩の国連科目の一つとして、IPW実習を実施している。埼玉県内の17施設（病院、高齢者施設、障がい者施設等）に赴き、利用者及び患者を対象に専門分野の異なる4大学の学生（埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学）が、対象者の支援計画を作成することで、チーム形成のプロセスや多職種による連携を学ぶ。オリエンテーション2日間、実習3日間、全体報告会が1日の、合計6日間の実習である。	142	18	埼玉県内の各施設（病院、高齢者施設、障がい者施設等）において、利用者及び患者を対象に専門分野の異なる4大学の学生が、対象者の支援計画を作成することで、チーム形成のプロセスや多職種による連携を学ぶ。保健医療福祉関係の3大学と工学系1大学による取り組みであり、本学単一では学ぶことが出来ない実習である。	他の専門職を目指す学生とともに学ぶことで、様々な専門職の専門性について知ることができた。また、患者・利用者さんやご家族、病院や施設の専門職の方、他の専門職を目指す学生とのやりとりを通じ、患者・利用者さんのケアに対する様々な知識やアプローチの方法を知ることができた。これらを通して、コミュニケーション能力や多職種と連携する力を身に付けることができた。	今年度は2019年度以来の対面実施となった。実際に実習先に赴くことで施設の様子が把握しやすく、理解が深まった。チームメンバーと円滑なコミュニケーションを取ることができ、患者や利用者、専門職へのインタビューによる学びも深まった。	感染症対策の面、移動時間の面で大変だという意見があった。また実習期間と再試期間が重複していた。これらの点については今後も様子をみながら検討していく必要がある。
59	薬学部医療栄養学科	2023/9/1	真野 博	公開講座等、地域へ向けた講座;	広報ときがわ 食はからだをつくる～城西大学通信～	比企郡ときがわ町		広報ときがわの中に食はからだをつくる～城西大学通信～を連載しており、教員および大学院生が執筆している。		1				
60	薬学部医療栄養学科 薬物療法学研究室	2023/9/5	須永克佳	公開講座等、地域へ向けた講座	北坂戸寿大学 2023年度第4回講座	坂戸市	北坂戸公民館	「注意したい薬と食品の飲み合わせ・薬の適正使用について」と題した2時間（途中10分間の休憩）の講演（パワーポイント使用、資料配付）を行った。	30	0	高齢になるにつれて薬が必要になる方が増えてくると思われ、薬と食品の飲み合わせや適正使用を知ることにより、安全に薬を服用できるようにになること。	薬の適切な服用について知っていた	テーマに関する一般の方の考えや疑問点などが聞けたこと	テーマに関するアンケート調査などができれば、学内の教育や研究のみならず地域への貢献に役立つ情報が得られたと思います。また、アンケートを事前に行うことでよりニーズに合った内容の授業にできたと思います。
61	薬学部医療栄養学科 食毒性学研究室	2023/9/8	和田政裕	委員の委嘱、会議への参加	第107回コーデックス連絡協議会	全国	消費者庁、厚生労働省、農林水産省	わが国のコーデックス委員会における今後の活動について諮問を受けるとともに、現在開催中のコーデックス委員会において検討されている議題について報告を受け、その内容に関する質問ならびにわが国の食品関連行政への対応について議論する。わが国の食品等に関する規格基準の国際的なハーモナイゼーションを検討、食品等の輸出入に関わる諸問題を明らかにし、わが国独自の食品の国際規格基準の批准についても意見を述べる。	全国に対し Youtubeによりリアル配信	0	食品関連行政への理解	コーデックス委員会の一般原則、食品輸出入検査・認証制度、食品表示	わが国の食品関連行政への協力	
62	薬学部医療栄養学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2023/9/17	古屋牧子（SAIPE委員会）	授業(地域の学習・研究)	リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越2023	埼玉県、川越	埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学、埼玉県	4大学連携（IPE）の学生と共にがん患者さんご家族に対してリレーを通して支援をする、がん制圧に向けた世界共通のチャリティイベントであるリレー・フォー・ライフ・ジャパン川越2023に参加した。今年度も昨年度に引き続き現地で活動を行った。今回はSAIPE活動企画として、埼玉医科大学の産婦人科医である高橋幸子先生監修のもと、「6つのがんを防ぐ「HPVワクチン」を知る、考える・伝える」をテーマとして、HPVワクチンに関するポスターの作成、相談会、スタンプラリーの開催、SNSによる発信など様々な活動を行った。	439	5	がん患者さんの想いやご家族の苦勞に触れ、これから医療者になることを立案・実行する機会となった。現地での活動を通して、他大学の学生との交流をもとに連携の学びとする。	本活動を通して参加者一人一人ががん患者さんについて向き合い、自分たちが患者さんに対して出来ることを立案・実行する機会となった。現地で活動を通して、他大学/他学科の学生が連携しながら一つの目的を共有して活動したことで、達成感と自信に繋がった。	上記教育上の目的の達成に加え、主体的に学生同士が連携/行動することで、学生ごとの目標や課題に対する達成感が得られたことが実施後のアンケート結果から明確になった。また、次回も活動に参加したいとの意見が多数あった。	大学ごとの予定を見せ合うことで連携を行えるシステムがほしかった、もっと活動開始が早ければ時間を合わせられたのではないかなどの意見があったことから、募集時期を早めることや連携しやすいスケジュール管理システムを活用するなどの検討が必要であると考えた。
63	薬学部医療栄養学科 食毒性学研究室	2023/11/15	和田政裕	委員の委嘱、会議への参加	第108回コーデックス連絡協議会	全国	消費者庁、厚生労働省、農林水産省	わが国のコーデックス委員会における今後の活動について諮問を受けるとともに、現在開催中のコーデックス委員会において検討されている議題について報告を受け、その内容に関する質問ならびにわが国の食品関連行政への対応について議論する。わが国の食品等に関する規格基準の国際的なハーモナイゼーションを検討、食品等の輸出入に関わる諸問題を明らかにし、わが国独自の食品の国際規格基準の批准についても意見を述べる。	全国に対し Youtubeによりリアル配信	0	食品関連行政への理解	残留農薬、コーデックス委員会の一般原則、コーデックス委員会総会について、スパイス・料理用ハーブ	わが国の食品関連行政への協力	
64	薬学部医療栄養学科 食毒性学研究室	2024/1/21	和田政裕	公開講座等、地域へ向けた講座	島根県栄養士会生涯教育研修会	島根県	島根県栄養士会	島根県栄養士会からの招聘により、県内で活躍する管理栄養士・栄養士に対し「医薬品と食品との相互作用」の演題で教育講演を実施した（Webによる講演）。	150	0	管理栄養士、栄養士に対する生涯教育	管理栄養士、栄養士に対する医薬品食品相互作用論に関する知識と薬学の基礎に関する学び	Web（Zoom）による講演	Webによる講演であったので視聴者のダイレクトな反応が見えなかった点
65	薬学部医療栄養学科 食毒性学研究室	2024/2/15	和田政裕	委員の委嘱、会議への参加	第109回コーデックス連絡協議会	全国	消費者庁、厚生労働省、農林水産省	わが国のコーデックス委員会における今後の活動について諮問を受けるとともに、現在開催中のコーデックス委員会において検討されている議題について報告を受け、その内容に関する質問ならびにわが国の食品関連行政への対応について議論する。わが国の食品等に関する規格基準の国際的なハーモナイゼーションを検討、食品等の輸出入に関わる諸問題を明らかにし、わが国独自の食品の国際規格基準の批准についても意見を述べる。	全国に対し Youtubeによりリアル配信	0	食品関連行政への理解	油脂、食品衛生、コーデックス委員会総会について		
66	薬学部医療栄養学科 食毒性学研究室	2024/3/13	和田政裕	委員の委嘱、会議への参加	第110回コーデックス連絡協議会	全国	消費者庁、厚生労働省、農林水産省	わが国のコーデックス委員会における今後の活動について諮問を受けるとともに、現在開催中のコーデックス委員会において検討されている議題について報告を受け、その内容に関する質問ならびにわが国の食品関連行政への対応について議論する。わが国の食品等に関する規格基準の国際的なハーモナイゼーションを検討、食品等の輸出入に関わる諸問題を明らかにし、わが国独自の食品の国際規格基準の批准についても意見を述べる。	全国に対し Youtubeによりリアル配信	0	食品関連行政への理解	食品汚染物質、食品添加物、分析・サンプリング法、スパイス・料理用ハーブ、油脂（植物油）	わが国の食品関連行政への協力	
67	薬学部医療栄養学科 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）	2024/5/25～ 2023/12/14	古屋牧子	委員の委嘱、会議への参加		埼玉県	埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学、埼玉県医師会、埼玉県歯科医師会、埼玉県薬剤師会、埼玉県看護協会、埼玉県栄養士会、埼玉県介護支援専門員協会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県公認心理師協会	埼玉県における「連携力の高い人材育成」を目指した意見交換会はSAIPEの取り組みについてご意見をいただいたり、緩和ケアIPW研修会のように、我々が実施してきたものを応用した形で現職者向けの研修としてお示ししたり、ご後援をお願いするなどを行ってきた。さらに、地域における連携の課題、連携ができる人材育成の課題などについて意見交換することを趣旨として昨年に続き今年度もZoom等オンラインツールを用いた遠隔で開催した。	83	0	本事業により、埼玉県内の保健・医療・福祉・建築分野の各職能団体と専門職を育成する大学との間に良好な連携関係が構築できると考えられる。これにより、大学で育成した連携力の高い人材が将来活躍しやすい職場環境を整備できるとともに、ステークホルダーである埼玉県民の生活の質の向上が期待できる。	5月の意見交換会では「患者さんに信頼される専門職がもつコンピテンシー（行動特性）とは？」について、12月の意見交換会では「この会の名称を考えよう」というテーマで意見交換を行った。これにより参加者間の共通理解や交流を深まった。	今年度もオンラインによる開催であったが、回を重ねるごとに参加者が自由に発言するようになってきた。これは、意見交換会以外の「IPWカフェ」（3カ月に1度、オンライン開催）や「キャラ化・あるあるワークショップ」など、自由参加型の気軽なイベントを複数回継続して開催していることが影響していると考えられる。	現状特に課題はなく、今後も継続実施の予定である。今後もSAIPEと職能団体が共同して企画・運営をするイベント等を開催していくことにより、各職能団体の若手人材や各大学の若手教員、学部生などを巻き込み、連携を広げていく必要がある。
68	薬学部医療栄養学科 食毒性学研究室	2024/5/30	和田政裕	委員の委嘱、会議への参加	第106回コーデックス連絡協議会	全国	消費者庁、厚生労働省、農林水産省	わが国のコーデックス委員会における今後の活動について諮問を受けるとともに、現在開催中のコーデックス委員会において検討されている議題について報告を受け、その内容に関する質問ならびにわが国の食品関連行政への対応について議論する。	全国に対し Youtubeにてリアル配信	0	食品関連行政への理解	分析・サンプリング法、残留農薬、食品添加物、食品汚染物質	わが国の食品関連行政への協力	

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
69	短期大学 城西大学 地域連携センター主催公開講座	2023/9/29	村越 純子	授業(地域から外部講師を招聘):公開講座等、地域へ向けた講座;	埼玉東上地域教育プラットフォーム(TJUP)公開講座 武蔵国の19校を通じて埼玉を知る2023「埼玉のスゴ偉人」	埼玉県	小川町にぎわい創出課、細川紙技術者協会	「小川和紙を支える人々」と題した講演会を、パネルディスカッション形式で開催した。講師として、元小川町職員で細川紙技術者協会事務局職員の保田義治氏、細川紙技術者協会副会長の太木ゆき江氏、細川紙技術者協会研修員の岡部淳子氏、小川和紙工業協同組合梱梱管理スタッフの大野麗子氏をお招きした。短期大学の開講科目「日本文化研修」では2017年度より毎年、小川町にぎわい創出課和紙普及宣伝グループのご支援を得て学外授業として和紙体験学習を行ってきた。今回の講演会はいこれまでお世話になった方々のご協力を得て開催された。ユネスコ無形文化遺産に登録された「細川紙」の特徴とその作業工程の専門性が説明され、主材料である楮栽培の維持方法などについて写真を用いてわかりやすく紹介された。そして小川和紙の継承・発展には、観光・文化・産業を三位一体とする観点から課題を解決していくことが必要と総括された。	170	143	短大生や将来教員をめざす学生たちが城西大学を取り巻く身近な地域にある伝統文化に気づき、その社会的な課題について考えるきっかけを作ることができたこと自体が成果です。またアンケート結果から、地域の方々にも小川和紙について強い関心をもっていただけたことがわかったことも成果です。地域連携センター職員の方々のご支援に感謝しています。	城西大学を取り巻く地域にある伝統文化を探し出して、学生とともに地域に根差して探究していく学習プロセスを構築していくことが大事と気づけたことです。	2017年度から継続して実施してきた短期大学開講科目「日本文化研修」における学外授業で得られたご縁がもとになってこの講演会が成立したことです。	お世話になった自治体と継続的に連携していくためには、部署の後任者とも信頼関係をしっかりと築いていくことが求められています。
70	短期大学	2023/10/18	田淵敬光	授業(学外で調査・活動);	東松山市きらめき市民大学における留学生による出前授業	東松山市	東松山市きらめき市民大学	東松山市きらめき市民大学(国際・文化学部)で本学ビジネス総合学科の留学生2名による出前授業「ベトナムについて」を実施した。	26	2	異文化理解、コミュニケーション能力、プレゼンテーションスキル、日本語	同上	出前授業の受講生だけでなく、講師役の留学生2名の成長にもつながった。	
71	短期大学 江秀華ゼミ	2023/10/28	小池陽樹・tb23022	クラブ・サークル等の活動	【TJUP】モルック競技会	ふじみ野市	TJUP	【TJUP】モルック競技会に出場しました。		2				
72	短期大学 「日本文化研修Ⅱ」(集中講義)における学外授業	2023/11/18～2023/11/18	村越純子(短期大学准教授)	授業(学外で調査・活動);	短期大学「日本文化研修Ⅱ」	小川町	小川町にぎわい創出課および和紙体験学習センター	短期大学の「日本文化研修Ⅱ」は、学生自らが地域社会の文化や歴史に触れ、その理解を深めることを目的としている。2017年度から小川町にぎわい創出課和紙普及宣伝グループの支援を得て学外授業を実施してきた。今年度の実施日前日には和紙体験学習センターにおいて紙漉き体験をした。お昼には城西大学卒業生関口久喜氏が経営する「割烹角屋」で幕の内弁当をいただいた。午後には小川町観光協会の4人の観光案内員のガイドンスによって名所旧跡を巡った。	27	15	地域の方々のご支援により、紙漉き体験や町歩きなどの体験型学習によって学生が日本文化の理解を楽しく深めることができることです。	学外授業に参加した学生全員が、紙漉き体験や町歩きによって小川町の地場産業や名所旧跡についての理解を深め、それをレポートとしてまとめて発表することができました。	参加した学生から、また小川町にいったみたいとの意見が多かったこと。城西大学卒業生関口久喜氏が経営する「割烹角屋」では大部屋を貸し切ることができ、かつ幕の内弁当の料金は特別に一人税込1000円に設定していただき、かつ大変充実した料理であったことはとくに感謝したいです。	従来どおり土曜日に実施したが、土曜日は城西大学の休講日であるため、学外授業を土曜日に実施することに受講生から理解を求めることが難しいです。
73	別科 別科 日本文化特殊講義A	2023/5/22	山王丸靖子	授業(地域の学習・研究);	醤遊王国・弓削多醤油の見学を行いました	日高市	弓削多醤油	別科の日本文化特殊講義ⅢA(5月22日)において、彰の国 醤遊王国(しょうゆおうこく) 弓削多醤油の見学を行いました。日本の伝統調味料と言えば醤油、みりん、味噌、料理酒などです。特に日本人の食生活に醤油は欠かせない大切な調味料です。城西大学から徒歩25分程度の場所(日高市多波目)には、創立100周年を迎える弓削多醤油があります。そこで、留学生の皆さん(6名)と一緒に見学を実施しました。当日は天候にも恵まれ、徒歩でおしゃべりと散策を楽しみながら醤遊王国を尋ねました。担当の方から醤油の原料や作り方、絞り方などをご説明いただきました。巨大な醤油を発酵させる木の桶は、1つ作ると200年から300年は使えるそうです。ところが、現在ではそのような木桶を作ることでできる人材がいなくなってしまったそうです。そこで、木桶職人復活プロジェクト(小豆島)が結成され、弓削多醤油の4代目社長(弓削田洋一さん)も主要メンバーとして携わっておられるとのことでした。見学の後は、名物醤油アイスクリーム、醤油団子、醤油プリン、冷たい甘酒などを堪能しました。日本の伝統調味料である醤油について理解を深めることができました。見学させていただいた弓削多醤油の皆さん、ありがとうございました。	7	6	地域の醤油工場を見学することにより、留学生が日本の食文化について深く学ぶことができる。	実際に醤油作りなどを見学したことで、より食文化への造詣が深くなった。	大学から徒歩で行かれた。また従業員の方に詳細な説明を受けることができた。	特になし。
74	別科 手焼きせんべい体験をしました	2023/11/6	山王丸靖子	授業(学外で調査・活動);	日本文化特殊講義ⅢB	川越市	自分でお煎餅を焼ける川越の手焼きお煎餅体験 十人十色	別科の日本文化特殊講義ⅢB(11月6日)では、留学生6人が手焼きお煎餅体験をしました。日本の代表的なおやつの一つとして「せんべい」があります。せんべいは漢字では煎餅と書きます。その歴史は古く縄文時代に遡ります。縄文時代の住居の跡から、せんべいのように平らにつぶして焼いたもの(食材はサトイモやヤマイモなどの芋類と考えられています)出土しており、せんべいの原型が確認されています。さらに、弥生時代の遺跡(吉野ヶ里遺跡、登呂遺跡)からもせんべいのような餅が出土しており、日本では古くから食されていたと考えられています。このせんべいの手焼き体験をしました。米粉を原料としたせんべいの生地を長く伸びたトングに挟み、一人ひとりが個別の窯に入れて焼き上げます。生地がゆっくりと大きく膨らんでいきますが、少しでも油断すると焦げてしまいます。火傷にも注意しなければなりません。また広がる大きさは人により異なります。焼きあがったせんべいの大きさにより「見習い」から「超人」までの5ランクに評価を付けてもらいます。今回の体験では、6人中2人が焼いたせんべいの直径が14センチを超えて「超人」との評価をいただきました。そして、超人はせんべい1枚が、余分にプレゼントしてもらえました!!	7	6	日本の食文化について学ぶことができる。	日本で古来より食されている煎餅の手焼き体験をすることで、日本の食文化について造詣が深まる。	実際に手焼きせんべいを体験して、食に触れる事ができた。	特になし。
75	語学教育センター	2023/10/28	大橋稔	中国語スピーチコンテスト;	中国語スピーチコンテスト	全国	埼玉県・坂戸市・坂戸市教育委員会・鶴ヶ島市・鶴ヶ島市教育委員会・テレ玉、毎日新聞社・埼玉新聞社・坂戸市商工会・西人間青年会議所・城西大学同窓会・城西大学父母後援会、NPO 法人)埼玉県日本中国友好協会、HSK日本実施委員会	全国の高校や大学などから応募を募り、中国語でスピーチを競い合うもの。今年で中国語は第9回を数えた。中国語は全国から60名の応募があり、本選で21名(朗読の部11名、スピーチ10名)が発表した。	92	2	時代の要請に応え得る中国語教育、オンライン・コミュニケーションの技術、本学のPRなど			
76	語学教育センター	2023/11/23	大橋稔	英語スピーチコンテスト;	英語スピーチコンテスト	全国	埼玉県・埼玉県教育委員会・坂戸市・坂戸市教育委員会・鶴ヶ島市・鶴ヶ島市教育委員会・テレ玉 毎日新聞社・埼玉新聞社・坂戸市商工会・西人間青年会議所・城西大学同窓会・城西大学父母後援会	全国の高校や大学などから応募を募り、中国語でスピーチを競い合うもの。今年で中国語は第9回を数えた。英語は全国から119名の応募があり、本選で20名が発表した。	158	1	時代の要請に応え得る英語教育、オンライン・コミュニケーションの技術、本学のPRなど			

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
77	キャリアサポートセンター	2023/4/1～2024/3/31	学長	県内在住一般高齢者による正課の聴講;	埼玉県 大学の開放授業講座	埼玉県	聖学院大学、日本薬科大学、尚美学園大学、東京国際大学、東邦音楽大学、ものづくり大学、埼玉県立大学、文教大学、国際学院埼玉短期大学、埼玉大学、浦和大学、女子栄養大学、西武文理大学、十文字学園女子大学、東京電機大学・大学院、埼玉工業大学、東都大学、文教学院大学、日本工業大学、淑徳大学、武蔵丘短期大学、日本社会事業大学	県内在住の55歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとしていただくため、県と県内・近隣にキャンパスを構える23大学が協力して授業科目の一部を開放し、一般の学生と一緒に授業を受けられる機会を提供する。		0				
78	水田記念図書館	2023/4/1～2024/3/31	関口 千登世	委員の委嘱、会議への参加;	坂戸市立図書館協議会委員	坂戸市	坂戸市教育委員会（坂戸市立図書館）	坂戸市立図書館協議会に出席し、適正な図書館運営を協議している。	12	0			協議の中で本学と連携できる事業について提案ができる。	
79	水田記念図書館	2023/4/1～2024/3/31	図書館長 関俊暢	産学官連携、産学連携、官学連携;委員の委嘱、会議への参加;	鶴ヶ島市立図書館協議会委員長	鶴ヶ島市	鶴ヶ島市教育委員会（鶴ヶ島市立図書館）	鶴ヶ島市立図書館協議会に出席し、適正な図書館運営を協議している。	10	0			協議の中で本学と連携できる事業について提案ができる。	
80	水田記念図書館 図書館学生アドバイザー	2023/6/21	山口 直美	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動;	城西大学 大学訪問 図書館学生アドバイザーインタビュー	埼玉県坂戸市	坂戸市立城山中学校	・グループに分かれて、生徒たちが大学生生活や受験についてアドバイザーにインタビューし、情報整理力、コミュニケーションスキルアップを目指す。	39	6	・地域社会の一員としての意識を育み人との繋がりを活性化する。	・グループインタビューを通して、コミュニケーション能力の向上、様々な質問に簡潔に答えられるような論理だてて話す力が養えた。	・接する機会が少ない中学生と会話することで、新しい発見ができ、楽しい時間を過ごせた。・インタビューに答えることで自分を振り返る有意義な時間となった。・地域との繋がりを維持し、今後の活動に発展させていきたい。	
81	水田記念図書館 図書館学生アドバイザー	2023/7/22～2023/8/4	山口直美	公開講座等、地域へ向けた講座;	「楽しもう！図書館を使った調べる学習コンクール」応援講座	坂戸市	坂戸市立図書館（地域相互協力図書館）	坂戸市立図書館において、学生アドバイザー11名が「楽しもう！図書館を使った調べる学習コンクール応援講座」のワークショップで講師を務めた	25	11	普段接点の少ない小学生のサポートをすることで、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力が養える。 地域社会の一員としての意識を育み人とのつながりを活性化する。	小学生に、分かりやすい言葉を選びながら論理だてて話す力が養えた。 小学生をサポートしたことで小学生の発言・行動から沢山刺激を受け、今後の活動の経験値となった。	小学生をサポートするために自ら学び、考え行動できた。 公共図書館との相互協力協定により、このような機会がもてた。	
82	水田記念図書館	2023/9/13	山口 直美	公開講座等、地域へ向けた講座;	地域相互協力図書館 館長及び主務者の集い	埼玉県坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町	坂戸市立図書館、鶴ヶ島市立図書館、日高市立図書館、飯能市立図書館、毛呂山町立図書館（地域相互協力図書館）	・2022年度の地域相互協力図書館関連事業の報告 ・2023年度地域相互協力図書館事業について検討 ・大学図書館と近隣図書館の連携により、情報交換、事業協力をする ことで、今後の図書館の在り方を共に考える。 ・合同で講演会や研修会を企画実施することで図書館利用促進を促し地域活性化に繋げる。	10	0			合同主催公開講座のテーマについて話し合い、1/30に開催が決まった。公共図書館の行事への参加について話し合った。	
83	水田記念図書館	2023/10/4	山口 直美	全国大学ビブリオバトル;	全国大学ビブリオバトル2023 ブロック予選 城西大学	埼玉県坂戸市	全国大学ビブリオバトル予選事務局	開催場所：城西大学水田記念図書館7階ラーニングcommonsおよびオンライン 司会：図書館学生アドバイザー ・上記全国大会の学内予選会を行った。7名の発表者が制限時間の5分を使って紹介本の魅力を観客に伝えた。 ・観覧者数合計 53名（オンライン参加3名含む）	60	37	・発表者 大勢の聴衆の前で本を紹介することで読解力、および発表のためのコミュニケーション能力を養い、プレゼンテーション能力を発揮する。・学生アドバイザー 役割に責任を持ち協力しながら、運営経験を積むこと。司会は、多くの観覧者 앞에서司会進行を行うことでプレゼンテーション能力を養う。	・発表者：ビブリオバトルで本を紹介するための読解力および発表のためのプレゼンテーション能力の向上。・学生アドバイザー：リハーサルで自発的に確認事項のチェックを行い、台本通りスムーズに進行できた。	パトラー同士で交流できた。 終了後は来年に向けて反省点を共有した。	発表者の応募が少なく、学部に偏りがある。今後の募集について検討が必要。
84	水田記念図書館	2023/10/12	関 俊暢	産学官連携、産学連携、官学連携;委員の委嘱、会議への参加;	鶴ヶ島市立図書館を使った調べる学習コンクール審査委員長	鶴ヶ島市	鶴ヶ島市教育委員会（鶴ヶ島市立図書館）	公益財団法人図書館振興財団主催の調べる学習コンクールに応募された鶴ヶ島市在住の小学生の作品の審査を行う		0			審査を通して地域の小学生の研究活動の支援ができる	
85	水田記念図書館	2023/10/19	関口 千登世	産学官連携、産学連携、官学連携;委員の委嘱、会議への参加;	坂戸市立図書館を使った調べる学習コンクール審査委員	坂戸市	坂戸市教育委員会（坂戸市立図書館）	公益財団法人図書館振興財団主催の調べる学習コンクールに応募された坂戸市在住の小学生の作品の審査を行う		0			審査を通して地域の小学生の研究活動の支援ができる	
86	水田記念図書館 学生アドバイザー	2023/10/24～2023/10/25	山口 直美	展示会;	第25回図書館総合展 ※オンライン開催期間（10月26日～11月15日）	会場：神奈川県横浜市（パシフィコ横浜）※オンライン同時開催	主催：図書館総合展運営委員会 企画・運営：カルチャー・ジャパン（JCC）	上記展示会に本学図書館学生アドバイザーが5名参加した。（参加学生）経済学部4年本間さん、経営学部4年松下さん、経営学部3年渡部さん、経営学部3年小林さん、現代政策学部3年川崎さん	8000	5	・他大学図書館の取り組みを知ることができる。・他大学の図書館で自身と同じような活動している学生と交流することでコミュニケーション能力を養える。・ポスターセッションを通してプレゼンテーション能力を養える。	・図書館関連企業のほか大学図書館で活動している団体も多く参加し、貴重な交流・情報交換の場となった。・他大学の活動内容に刺激を受けて、今後の活動に活かしたいという意欲が湧いた。	・他大学の学生と接する機会は大変貴重な機会となり、各々人脈を広げられたため、引き続き継続して参加、交流していきたい。・ポスターを協力して製作することで、チームワークが深まった。・本学学生アドバイザーの活動を多くの方に知っていただけた。・他大学のピアサポートの事例を学べた。	平日開催のため、授業で参加できない学生がいた。
87	水田記念図書館 学生アドバイザー	2023/11/3	山口 直美	公開講座等、地域へ向けた講座;	地域連携活動発表会（パネル展示）	埼玉県	城西大学地域連携センター	上記ポスターセッションに本学図書館学生アドバイザー3名が参加した。（参加学生）理学研究科2年 横川さん、大澤さん、経済学部4年松下さん		3	・発表を通じてコミュニケーション能力が養える。・地域行事に参加し地域社会の一員としての意識を育み地域のつながりを活性化する。	・論理だてて話す力が養えた。・観客者とのデスカッションによりコミュニケーション能力が養えた。・他の発表者と交流できた。	ネルを作成することで、地域連携活動について振り返り考える良い機会となった。 学生の発表機会が増え、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上が見られる。	
88	水田記念図書館 学生アドバイザー	2023/11/3	山口 直美	高麗祭;	ビブリオバトル2023 in 高麗祭	坂戸市	高麗祭	開催方法：高麗祭特設ステージで対面実施 ・司会を学生アドバイザーが担当し、4名の発表者が制限時間の5分を使って紹介本の魅力を観覧者に伝えた。	61	35	発表者：大勢の観戦者 앞에서本を紹介することで読解力、および発表のためのコミュニケーション能力を養う。 学生アドバイザー：自主的に協力してイベントを運営する経験を積むこと。	発表者：全国大学ビブリオバトル予選会のチャンプ、準チャンプが出場し、プレゼンテーションがさらに向上した。 学生アドバイザー：リハーサルで自発的に確認を行い準備を整え、本番に臨むことができたため、司会進行など全般を通してスムーズな運営を行う事ができた。	学生アドバイザー全員がそれぞれの役割を果たし、多くの観戦者の前でイベントを実施することができた。 会議で来年に向けて改善点や反省点を共有した。	
89	水田記念図書館	2023/11/5	関口 千登世	公共図書館との連携;	第33回鶴ヶ島市立図書館まつり 展示参加	鶴ヶ島市	鶴ヶ島市立図書館	美術館の浮世絵関連展示に合わせて浮世絵関連の図書館蔵書进行展示し、鶴ヶ島市立図書館利用者にご見学いただいた。	4055	0			鶴ヶ島市立図書館利用者に貴重な浮世絵に関する資料を見学いただけた。また、図書館の一般公開についてもご案内することができた。	高麗祭の翌日のため3日間の最終日のみの参加となった。来年度開催日程について要望をしていく。
90	水田記念図書館	2023/11/11	山口 直美	全国大学ビブリオバトル;	全国大学ビブリオバトル2023 彩の国埼玉決戦【関東Aブロック決戦】	埼玉県	全国大学ビブリオバトル予選事務局 ブロック決戦主催団体：聖学院大学総合図書館	上記イベントに、理学部数学科2年川上さくらさんが出場した。 開催場所：イオンモール上尾・サウスコート 各地で開催されたブロック予選を勝ち抜いた5名のパトラーが会場し、チャンプ本をかけてバトルを行った。 ※ 38名の観覧者	51	1	本を紹介するために必要な読解力・観衆の前で発表するプレゼンテーション能力の向上。	聞き手にわかるように簡潔にまとめ本を紹介し、発表後のディスカッションタイムでは観覧者の質問に対応し答えることで、コミュニケーションスキルを身に着けることが出来た。	感動したことを誰かに伝えたいという思いを込めて、おすすめの本について発表できた。残念ながらチャンプ本は逃してしまっが、他大学の学生と交流する良い機会となった。	

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
91	水田記念図書館 学生アドバイザー	2023/11/18	山口 直美	フォーラム;	Supporters' Forum 2023 at Seijo University and Konan University	東京都世田谷区・兵庫神戸市	成城大学・甲南大学学生サポーター団体 成城大学教育イノベーションセンター	前半：全体ワーク 成城大学会場と甲南大学会場の2会場をオンラインで繋げて『もう一歩踏み込んで本音を話せる関係づくり』のワークショップを実施 後半：学習・キャリア・国際交流・高大連携の分科会に分かれて実施	230	3	学生サポーター団体（学習支援、国際交流、キャリア支援、ライブラリー）の相互理解と外部の学生サポーター団体との連携を図る。	上記フォーラム成城大学会場に、本学図書館学生アドバイザー3名が参加した。（参加学生）経営学部4年生 松下さん、経営学部3年 渡部さん、松岡さん 前半：講演の途中にグループワークを取り入れ、体感的にアサーションについて学ぶことができた。 後半：前半に学んだアサーションスキルを活かし、コミュニケーションを円滑にしディスカッションに進化をもたらすことができた。	今年度は2会場同時開催により、19大学、4高校、総勢230名参加の大規模イベントにオフラインで参加し他大学の学生サポーターと交流することが出来た。	
92	水田記念図書館	2023/12/10	関口 千登世	委員の委嘱、会議への参加;	図書館と県民のつどい埼玉2023	埼玉県全域	埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県学校図書館協議会、埼玉県高等学校図書館研究会、桶川地域文化振興共同事業体、桶川市、桶川市教育委員会、NHKさいたま放送局、FMNACK5、テレ玉、公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部、埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）、埼玉県書店商業組合、一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）、公益財団法人文字・活字文化推進機構	・毎年行われる埼玉県内最大の図書館イベント。公共図書館、学校図書館、大学図書館のほか、活字文化に関わる団体が参加し、講演会・ビブリオバトル・展示会などを行う。今回は桶川市民ホール・さいたま文学館で開催された。 ・本学は埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）の有志として展示に参加。 ・図書館総合展で出展した「城西鉄道の旅～ライブラリーラウンジの歴史探訪～」のポスターや地域連携活動発表会パネルのほか学生アドバイザーの制作物（グッズ）などを展示し、これまでの「ライブラリーラウンジ」や地域連携活動状況を紹介した。 ・100名以上の方に水田記念図書館のパンフレットや図書館報（BookMark）を配布し、利用案内を行った。	3122	0		図書館の一般開放の案内や本学の学生アドバイザーの活動内容紹介を行うことで、地域の方々に本学を知っていただく良い機会となった。また他の大学図書館だけでなく館種を超えた交流を通して、今後の業務に活かせる取り組み等も知ることができた。	コロナ後、初めての対面での開催で予想以上に多くの方にご来場いただき配布物が少し足りなくなった。	
93	水田記念図書館	2024/1/30	関口 千登世	産学官連携、産学連携、官学連携;公開講座等、地域へ向けた講座;	第12回地域相互協力図書館合同主催公開講座	坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町	坂戸市立図書館、鶴ヶ島市立図書館、日高市立図書館、飯能市立図書館、毛呂山町立図書館、越生町立図書館	現代政策学部の飯塚智規先生による防災に関する公開講座「クロスロードで学ぶ、私がやるべき災害対策」を開催し、地域の方、公共図書館員など28名が参加した。	28	1	防災の研究者による講演およびグループワークにより、防災への関心が深まる。	本学の防災関連の研究者である教員による講演とグループワークにより、防災への知識を学ぶことができた。異なる居住地、異なる年齢の方とのグループワークにより、防災に関する様々な事例や意見を聞くことができた。	グループワークによる交流で参加者が活発に意見交換をし、より防災への意識が高まった。公共図書館との連携により広報活動が活発にできた。コロナにより2020年度以降休止していた活動を再開することができた。	
94	水田記念図書館	2024/3/7	関口 千登世	産学官連携、産学連携、官学連携;公共図書館との合同研修会;	2023年度地域相互協力図書館合同研修会	坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町	坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町	経営学部鈴木一生助教を講師に迎え、近隣の公共図書館との合同研修会を開催した。米国の公共図書館の現状を聴講し、これからの公共図書館・大学図書館の在り方について意見交換を行った。	9	0	館種を超えて研修会をすることにより更なる利用者へのサービス向上を目指す。	館種を超えて研修会をすることにより更なる利用者へのサービス向上に向けて学ぶことができた。	講師による米国を中心とした公共図書館の課題等の説明を聴講し、自館の課題解決へ向けて学ぶことができた。各図書館の課題について共有することができた。	日程調整が難しく参加機関が少なかった
95	水田美術館	2023/4/1～2024/3/31	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携	坂戸市観光推進事業への参加および協力	坂戸市	坂戸市役所商工労働課観光推進担当	坂戸市主導で発足された観光資源団体に2019年1月より参加。今年度は同市による、各団体観光入込客数（7月～12月）調査に協力した。	0	0				
96	水田美術館	2023/4/1～2024/3/31	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携	埼玉県博物館連絡協議会HP掲載情報提供	埼玉県内全域		2012年度より加盟中の「埼玉県博物館連絡協議会」では、研修への参加や情報共有を行うなど、県内にある美術館・博物館と相互連携を図るようにしており、毎年、所属する西部地域の催案案内への情報提供や、「埼玉県博物館連絡協議会加盟館園マップ」の校正作業に協力している。	0	0				
97	水田美術館	2023/5/27	紫村裕美	公開講座等、地域へ向けた講座	ローカルヒーロー×浮世絵祭り体験第2弾	坂戸市		地域交流および教員連携事業として2023年2月11日（土）に実施したローカルヒーローショーと浮世絵版画の折り体験ができるコラボイベントの第2弾を、前回と同じく北坂戸にぎわいサロンを会場に5月27日（土）開催した。浮世絵所蔵館として近隣地域の方々への浮世絵普及を目的に、本学経営学部非常勤講師の石井龍太先生と連携を図り、ローカルヒーローステージショーの参加者などに浮世絵版画の折りを体験して頂くもので、幕間に美術館スタッフもステージに立ち、紙芝居形式での江戸時代クイズを交えながら折り体験をご案内する時間も設けた。	7	0				
98	水田美術館	2023/7/14	紫村裕美	授業(学外で調査・活動);授業(地域の学習・研究);小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	美術館出張授業	坂戸市	坂戸市立城山中学校	坂戸市立城山中学校美術科の授業において、地域の教育機関での初めての出張授業として美術館出張プログラムを実施。授業前半では浮世絵についてクイズを交えながら説明し、後半では浮世絵版画の折りを実際に体験して頂くという内容で、1年生から3年生まで全学年の生徒に浮世絵を知って頂く時間となった。	80	0				
99	水田美術館	2023/7/26	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携;授業(地域の学習・研究);小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	日高市 ひ・まわり探検隊「世界にひとつだけのうちわを作ろう!!」	坂戸市	日高市	日高市で毎夏実施されている市内小学生の夏休み体験教室「ひ・まわり探検隊」に、地域連携センターと連携をとり今年度初めて参加。水田美術館、大石化石ギャラリー、理学部化学科が教室を受け持ち、美術館では7月26日（水）に「世界にひとつだけのうちわを作ろう!!」を、7月28日（金）に化石ギャラリーとのコラボ教室「JOSAI美術館・博物館ワークショップ」を実施した。	8	0				
100	水田美術館	2023/7/28	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携;;授業(地域の学習・研究);小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	日高市 ひ・まわり探検隊「JOSAI美術館・博物館ワークショップ」	坂戸市	日高市	日高市で毎夏実施されている市内小学生の夏休み体験教室「ひ・まわり探検隊」に、地域連携センターと連携をとり今年度初めて参加。水田美術館、大石化石ギャラリー、理学部化学科が教室を受け持ち、美術館では7月26日（水）に「世界にひとつだけのうちわを作ろう!!」を、7月28日（金）に化石ギャラリーとのコラボ教室「JOSAI美術館・博物館ワークショップ」を実施した。	8	0				
101	水田美術館	2023/9/16	紫村裕美	公開講座等、地域へ向けた講座	展覧会関連企画講演会	坂戸市		糖類に関する様々な事業を展開する公益社団法人糖業協会所蔵の大正末期から昭和50年代頃までの洋画コレクションを紹介する展覧会「煌めきの日本近代洋画展－糖業協会コレクションで出会う名品－」の関連企画として、講演会「修復家からみた日本近代洋画の魅力」を、会場参加とオンライン（Zoom）参加のハイフレックス形式で開催。講師に、渡邊郁夫氏（有限会社修復研究所21所長、東海大学非常勤講師）をお招きし、修復家だからこそ知り得る洋画作品の裏話をお話頂いた。	26	0				
102	水田美術館	2023/9/30	紫村裕美	公開講座等、地域へ向けた講座	展覧会関連企画ワークショップ「誰でもカンタン！自由に色で遊ぼう」	坂戸市		糖類に関する様々な事業を展開する公益社団法人糖業協会所蔵の大正末期から昭和50年代頃までの洋画コレクションを紹介する展覧会「煌めきの日本近代洋画展－糖業協会コレクションで出会う名品－」の関連企画として、ワークショップ「誰でもカンタン！自由に色で遊ぼう」を開催。ミニキャンバスにアクリルガッシュを使用して小さな作品を描くもので、テーマ「遊び」のもと、絵筆のほかに、スポンジや綿棒、ウッズスティックやスキージーなど様々な道具を自由に使用しながら、参加者には感性のままに描いて頂いた。	5	0				

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
103	水田美術館	2023/10/30～ 2023/11/10	井上直子（薬学部准教授）、柴祥子（薬学部助教）、 紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携、授業（地域の学習・研究）、 展覧会	展覧会「薬用植物図鑑一見で感じて楽しむ生薬」	坂戸市	松浦薬業株式会社	薬学部創設50周年を記念し、薬学の原点とも言える薬用資源に焦点を当て、薬学部3学科の様々な視点により薬用植物の魅力をお楽しみ頂いた。また、本展では、薬学部薬学科「コミュニケーション体験演習」を履修する学生のうち10名が「薬学部50周年企画展示プロジェクト」に参加、チラシデザインから薬膳レシピ考案、生薬入りレジン著置き製作などの様々な展示準備に携わり、また、関連イベント（11月3日（金）、4日（土）高麗祭時）でのワークショップ含む来館者対応も行うなど、学生教育にも繋がる展示となった。	1652	10				
104	水田美術館	2023/11/5	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携、公開講座等、地域へ向けた講座	第33回鶴ヶ島市立図書館まつり出展	鶴ヶ島市	鶴ヶ島市立中央図書館	鶴ヶ島市立中央図書館を会場に開かれた「第33回鶴ヶ島市立図書館まつり」（2023年11月3日～5日）に、浮世絵普及・地域貢献を目的としたアウトリーチ活動の一環として、最終日5日（日）に初めて出展。体験カテゴリとして参加し、浮世絵所蔵館の特色を打ち出した浮世絵復刻版や浮世絵版画の制作に必要な道具・絵具類、そして復刻版を制作した際に実際に使われた版木のほか、水田記念図書館所蔵の浮世絵関連書籍も展示するなどを通して、来館者の方々に浮世絵を知って頂く機会とした。さらに、目玉となる浮世絵版画の摺りが体験できるコーナーも設置、3回摺るだけで完成する簡単な金魚の図柄を用意し、児童を含む約80名に体験して頂いた。本学現代政策学部 柳澤智美教授のゼミでは、2015年より学生ボランティアとしてこの展覧会運営に参加し、子どもたちの創作活動への支援を地域ボランティアとともに取り組んできた。今年度の応募作品数は坂戸市8校、鶴ヶ島市5校より214点で、そのうち21点が入賞作品として選ばれた。また、会期前日には入賞者表彰式を開催、その他、土日も開館するように対応し、学生ボランティアが表彰式運営スタッフ、土日来館者対応スタッフとして参加した。	80	0				
105	水田美術館	2023/11/27～ 2023/12/17	柳澤智美（現代政策学部教授）、 紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携、授業（地域の学習・研究）、小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動、展覧会	展覧会「第21回 MOA美術館 坂戸・鶴ヶ島自動作品展」	坂戸市	MOA美術館（公益財団法人岡田茂吉美術文化財団）、MOA美術館 坂戸・鶴ヶ島児童作品展 実行委員会、城西大学現代政策学部ボランティア団体「アーツ・イン・エデュケーション」、文部科学省、外務省、農林水産省、環境省、こども家庭庁、埼玉県、埼玉県議会、埼玉県教育委員会、坂戸市、鶴ヶ島市、坂戸市教育委員会、鶴ヶ島市教育委員会、全国連合小学校長会、日本ユネスコ国内委員会、公益社団法人日本PTA全国協議会、公益財団法人海外日系人協会、公益社団法人全国子ども会連合会、公益財団法人ボイスカウト日本連盟、全国新聞事業協議会、産経新聞社さいたま総局、埼玉新聞社、テレビ埼玉	「MOA美術館児童作品展」は、子どもたちが興味関心を持ったことをひとりひとりの感性で絵に表現していくことで、「思いやりの心」「豊かな心」を育てることを目的に1989年よりMOA美術館（静岡・熱海）が主催となって実施している児童作品展で、「坂戸・鶴ヶ島児童作品展」は、その全国展に先駆けて行われる地域展となる坂戸市、鶴ヶ島市内の小中学生たちの絵画作品展で2002年より行っている。本学現代政策学部 柳澤智美教授のゼミでは、2015年より学生ボランティアとしてこの展覧会運営に参加し、子どもたちの創作活動への支援を地域ボランティアとともに取り組んできた。今年度の応募作品数は坂戸市8校、鶴ヶ島市5校より214点で、そのうち21点が入賞作品として選ばれた。また、会期前日には入賞者表彰式を開催、その他、土日も開館するように対応し、学生ボランティアが表彰式運営スタッフ、土日来館者対応スタッフとして参加した。	724	45				
106	水田美術館	2024/1/20	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携、公開講座等、地域へ向けた講座	展覧会関連企画ギャラリートーク	坂戸市	沖縄県立博物館・美術館	展覧会「英雄 尚巴志ーはじまりの統一王ー」の関連企画として、本展を企画・監修されている山本正昭氏（沖縄県立博物館・美術館主任学芸員）をお招きし、ギャラリートークを1月20日（土）に行った。同日開催の講演会に引き続き、山本氏より、展示室内掲示のパネルや沖縄県立博物館・美術館が所蔵する尚巴志関連の史跡から出土された考古資料を示しながら講演会の内容をさらに掘り下げてお話頂いた。	10	0				
107	水田美術館	2024/1/20	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携、公開講座等、地域へ向けた講座	展覧会関連企画講演会	坂戸市	沖縄県立博物館・美術館	展覧会「英雄 尚巴志ーはじまりの統一王ー」の関連企画として、本展を企画・監修されている山本正昭氏（沖縄県立博物館・美術館主任学芸員）をお招きし、会場とオンラインいずれからでも参加できるハイフレックス形式の講演会を1月20日（土）に行った。15世紀前半に、琉球列島の中で唯一の王権を築いて乱世の琉球をひとつにまとめ上げた稀代の英雄 尚巴志について、その誕生にはじまり、本島南部の一領主から三山を統一し国王に即位するまで、そして三山を統一した後の様子を、現在も確認できる関連史跡や出土遺物、周辺地域の調査研究から得た知見によりお話頂いた。	21	0				
108	水田美術館	2024/2/1	水田美術館、学長所管研究「芸術に現れる美の歴史的、数理的、データサイエンス的解釈と相互関係の考察」プロジェクトチーム	公開講座等、地域へ向けた講座	展覧会関連企画講演会	坂戸市		展覧会「現代数学と切り絵アート展」の関連企画として、本展の出品作家である岡本健太郎氏（和から株式会社数学講師）をお招きし、講演会と切り絵の実演会を2月1日（木）に行った。前半の講演では、数学とアートとの関わりについて、①数学とアートの歴史、②数学の「美しさ」について、③数学アートと切り絵、の3つのポイントに分けて丁寧にお話され、後半の切り絵実演では、制作で実際に使う道具の紹介をしながら制作の様子を再現して頂いた。	41	0				
109	水田美術館	2024/2/21	紫村裕美	授業（地域の学習・研究）、小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	地域交流学習事業 毛呂山町立光山小学校学習体験	毛呂山町	毛呂山町立光山小学校	地域交流学習事業として、毛呂山町立光山小学校6年生37名が本学を訪問し、理学部化学科と美術館の体験学習に取り組んだ。美術館では、浮世絵に親しんで頂く事を目的に、前半は簡単な浮世絵講座と復刻版を用いた鑑賞ワークショップをチームに分かれて行い、後半は浮世絵版画の摺りを体験して頂いた。子ども達にとっても鑑賞ワークショップでの細かなところまで気付け観察力を養い、また、摺り体験で摺りを楽しみながら伝統木版画技術の一端を学ぶ良い機会になったと思われる。	40	0				
110	水田美術館	2024/3/4～ 2024/4/19	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携、展覧会	展覧会「第7回・第8回めつたさかど！デジタルフォトコンテスト入賞作品展」	坂戸市	坂戸市、坂戸市教育委員会	2018年度より美術館で開催している坂戸市主催「めつたさかど！デジタルフォトコンテスト」の入賞作品展。2022年度は学内工事による長期休館のため開催できなかったが、9月の開館再開した事で、本展も開催する運びとなった。新型コロナウイルスの影響で2021、2022年度と坂戸よさこいが中止となり「坂戸よさこい編」の募集はないが、「観光編」の「いきいき坂戸部門」と「自然・風景部門」への応募の中から選ばれた最優秀賞・優秀賞・入選の入賞作品計36点を写真パネルにしてご覧頂く。	0	0				
111	水田美術館	2024/3/23	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携	「TJUPランド～こどもフェスタ～」内での美術館体験ワークショップ	東上線沿線地域、埼玉県	TJUP	本学が加盟しているTJUP（埼玉東上地域大学教育プラットフォーム）主催の「TJUPランド～こどもフェスタ～」（3月23日、会場：女子栄養大学）において、「わくわくワークショップ」カテゴリとして参加。浮世絵版画の摺り体験を通じて伝統木版画を体験して頂いた。	74	0		体験後に実施したアンケートには、「学校で習う版画と違って楽しかった」「昔の浮世絵をもっと知りたいと思った」などの声も聞け、版画体験の楽しさとともに浮世絵普及にも繋げる事ができた。		

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
112	水田美術館	2024/3/23	紫村裕美	産学官連携、産学連携、官学連携;	「TJUPランド〜こどもフェスタ〜」内での「わくわく！浮世絵摺り体験」ワークショップ参加	東武東上線沿線、埼玉県	TJUP	本学が加盟しているTJUP（埼玉東上地域大学教育プラットフォーム）主催の「TJUPランド〜こどもフェスタ〜」（3月23日、会場：女子栄養大学）において、「わくわくワークショップ」カテゴリとして参加。浮世絵版画の摺り体験を通じて伝統木版画を体験して頂いた。	74	0			体験後に実施したアンケートには、「学校で習う版画と違って楽しかった」「昔の浮世絵をもっと知りたいと思った」などの声も聞け、版画体験の楽しさとともに浮世絵普及にも繋げる事ができた。	
113	地域連携センター	2018/8/1～2024/3/31	高尾浩一	産学官連携、産学連携、官学連携、小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動、委員の委嘱、会議への参加、公開講座等、地域へ向けた講座、地域イベントへの参加	埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）	鶴ヶ島市など	坂戸市など23自治体、株式会社アーベルソフトなど17事業者等	地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代への支援のビジョンのもと、埼玉県西部を中心に所在する20大学・短期大学、23自治体、13事業者等で形成されるプラットフォーム。「多様な高等教育」「生活しやすい地域づくり」「地域産業の活性化」を掲げ、自治体と地元企業とともに地域活性化を目指している。	1000	0				
114	地域連携センター	2023/4/1～2025/3/31	渡辺 沙織	委員の委嘱、会議への参加;	坂戸よさこい実行委員会実行委員	坂戸市	坂戸よさこい実行委員会	「坂戸よさこい」の継続及び更なる発展のため、検討を行う委員会への委員での参加。	70	0				
115	地域連携センター	2023/4/1～2024/3/31	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携;	北坂戸にぎわいサロン	坂戸市	坂戸市、UR	北坂戸駅東口にあるURの1階で、週4日ラーニングコモンズ、すなわち学生と地域住民が一緒に学び会いながら、にぎわいを創造する。	100名以上	0			大学との交流事業の種類・回数ともにが昨年に比べて増加した。	
116	地域連携センター	2023/4/15～2023/4/16	渡辺沙織	産学官連携、産学連携、官学連携;	北坂戸にぎわいサロン作品展	坂戸市	坂戸市、UR都市機構、東京電機大学	北坂戸にぎわいサロンで活動している、ものづくりのグループが制作した作品を展示し、成果発表を行う。また、同時に即売会を実施し、売り上げを今後の制作活動の一助としていただく。	193	3				
117	地域連携センター	2023/5/22～2023/6/8	奈良 博恵	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	毛呂山町光山小学校との連携事業（学習サポート事業（書写））	毛呂山町	毛呂山町	書道サークルの学生が、書道の授業の補助員として、硬筆の添削、机間指導などを行い、生徒との貴重な経験を積むことができる機会となる。	約200名	4	子どもたちへの日本文化の伝達、コミュニケーション能力、城西大学への興味・関心の喚起。	教育現場で活動することにより、生徒との貴重な経験を積み、学生自身の成長に繋がった。。	適切なサポートをしている旨、光山小学校長からお褒めの言葉をいただいた。	授業に影響のないよう学生同士で調整を行っている。
118	地域連携センター	2023/5/26～2023/5/27	奈良 博恵	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	毛呂山町光山小学校との連携事業（学校行事交流事業（運動会））	毛呂山町	毛呂山町	教職課程を履修している学生が、光山小学校の運動会の運営補助、児童との交流活動、児童の見守り、準備・片付けなどを通じて、現場経験を積むことができる機会となる。	約200人	4	参加者全員教職課程を履修している学生なので、教育現場で活動することにより、児童との貴重な経験を積み、学生自身の成長に繋がった。	コミュニケーション力。全体を見る力。	運動会日和で、とても盛況で事故もなく無事に終わった。	運動会のテント組み立てがメインにならないよう、小学校側に伝えた。
119	地域連携センター	2023/6/13	奈良 博恵	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	毛呂山町光山小学校との連携事業（学校行事交流事業（体力テスト））	毛呂山町	毛呂山町	ソフトボール投げ指導補助を通じて、生徒との貴重な経験を積むことができる機会となる。	約200人	6	想定外の課題発生への臨機対応、チームワーク力、知名度向上。	コミュニケーション力、全体を見る力、チームワーク力、	天気が悪くなるという情報により急遽2日間実施が1日の実施となったが、すぐに対応ができた。	平日の午前に実施のため、授業に影響のない学生の動員が難しい。
120	地域連携センター	2023/6/23	奈良博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	TJUP第6回業界セミナー「オンライン合同企業説明会」	埼玉県		TJUP事業者等会員や会員が紹介する埼玉県内の優良企業をTJUP会員校学生へ紹介する。	110	15	TJUP会員校の就職率向上			学生への告知方法
121	地域連携センター	2023/7/7	奈良博恵	大学間連携	TJUP「オンライングループディスカッション講座：Let's みんなでディスカッション！」	坂戸市など23自治体		会員校の学生同士が学年・大学を横断してグループディスカッションを実施することで、就活対策だけでなく、社会に出た時に役立つコミュニケーション力・協調性・リーダーシップを在学中に養う事を目的とする。	30	5	コミュニケーション力・協調性・リーダーシップを在学中に養う			参加が学生の成果につながる開催日の見極め。
122	地域連携センター	2023/7/10	奈良 博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	第16回坂戸市・城西大学連携協力推進委員会	坂戸市	坂戸市	坂戸市と本学との連携協力のもと、互いに協働し、活力のある個性豊かな地域社会の形成・発展を目的に、1年に一回、昨年度の事業のフィードバック、見直し、当年度の計画などを相互に話し合う。	16	0	坂戸市と本学との相互理解を深める機会となる。	基本協定に基づく各種施策・事業が充実となる。個性豊かな地域社会づくりに繋がる。	大学基準協会の点検評価の資料で、坂戸市との連携協力推進委員会の資料を提出することができた。	学長・副学長をはじめ、全員が揃う日程調整が難しい。次第に則った事務的な内容で、議論が乏しい。
123	地域連携センター機能別消防団	2023/7/13	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携;	機能別消防団オリエンテーション	坂戸市	坂戸市消防団	坂戸市消防団主催で、大学生機能別団員33名が参加し、大学生機能別団員の役割や、消防団員の服務などについての講習を受講するとともに、5つのグループに分かれて消防団員との意見交換が行われた。	39	33	大学生機能別消防団員の概要を知ることができ、団員としての自覚を持つことができる。	大学生機能別消防団員の概要を知ることができたほか、消防団員との交流を通じて今後の活動が円滑にすすめられる効果があったと考ええる。	一方的な講義だけでなく、意見交換の時間があったこと。	当日欠席者がおり、グループ編成に急な対応が求められたこと。
124	地域連携センター	2023/7/24～2023/8/19	森田勇人	産学官連携、産学連携、官学連携、小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動;	子ども大学にしているま	坂戸市、毛呂山町、越生町	明海大学、坂戸市、毛呂山町、越生町	明海大学、坂戸市・毛呂山町・越生町との教育委員会と連携し、地域の子どものための知的好奇心を刺激する学びの機会を提供する。今年度は日本医療科学大学が講座実施のみ参加した。本学からは「マイナス196℃の世界」森田勇人先生（理学部教授）・阪田知己先生（理学部教授）、「地球からのおくりもの」宮田真也先生（理学部助教）の2講座を実施した。	45	6	各大学の特色を活かした講義をすることで、地域の子どものための知的好奇心を刺激し、興味と経験を育むと同時に若い世代のうちから地域の大学を認識してもらう。	実験や観察の講義を受けることにより、集中力とコミュニケーション力が向上したと推測する。事業の特性柄、児童を「大学生」として接することで自立心を成長させる一助にもなったと推測する。		
125	地域連携センター	2023/7/26～2023/7/31	奈良博恵	産学官連携、産学連携、官学連携、小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動;	「第25期ひ・まわり探検隊」体験教室	日高市	日高市	日高市内の小学生を対象に、「ふるさと新発見ひ・まわりスポーツ探し」での 市内探検や、公民館サークル、企業、学校等が指導者となって実施する「体験教室」をおとして、郷土愛の醸成と地域の大人との交流の機会を作ることとを目的とする。特別編として本学は坂戸キャンパス内にて実施した。「世界にひとつだけのうらわを作ろう!!」美術館、「JOSAI美術館・博物館ワークショップ」美術館・化石ギャラリー、「化学を楽しもう☆城西実験クラブ☆」化学科の3教室を実施した。	42	4	大学の特色を活かした体験教室を実施することで、地域の子どものための知的好奇心を刺激し、興味と経験を育むと同時に若い世代のうちから地域の大学を認識してもらう。	実験、工作や観察の講義を受けることにより、集中力とコミュニケーション力が向上したと推測する。		
126	地域連携センター経営学部石井ゼミ、吹奏楽部、SHOELACE	2023/7/29	渡辺 沙織	クラブ・サークル等の活動、授業（学外で調査・活動）;	北坂戸イーストフェス	坂戸市	芦山町内会、けやき通り商栄会	芦山町町内会とけやき通り商栄会がタッグを組んだお祭り「北坂戸イーストフェス」が開催されました。城西大学が、北坂戸駅東口にある「北坂戸にぎわいサロン」を運営している縁で出演の声掛けをいただいた。城西大学経営学部石井ゼミのローカルヒーローショー、吹奏楽部、ダンスサークルSHOELACE（シューレース）がステージを披露した。	多数	70	コロナ禍が収束し、学外に向けた活動のアウトプットの場となる。	学外に向けた発表の面白さ・充実感を感じることができたこと。	初ステージの学生も堂々としたステージだったこと。猛暑の中でも体調不良者を出さずに参加できたこと。	当日の天候の変化に十分対応できず、テントの破損や音響の不具合などがあったこと。
127	地域連携センター	2023/8/1～2023/9/15	奈良博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	TJUPインターンシップ2023	埼玉県	TJUP事業者等会員4社、埼玉県内のTJUP事業者等会員紹介2社	TJUP事業者等会員と大学・短期大学会員が共同で会員校の在学生を対象とする「インターンシップ」を企画・実施する。学生に地元企業での就業体験の機会を提供し、会員校学生のキャリア意識を醸成する。職業と埼玉県内に事業所を持つ企業への理解を深めることで、実習先の職種・企業を進路の候補の選択肢のひとつとして検討してもらう機会を提供する。	24	4	TJUP会員校の埼玉県内での就職率向上			
128	地域連携センター	2023/8/1～2023/8/4	奈良 博恵	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	城山中学校・若宮中学校合同吹奏楽部の練習施設提供	坂戸市	坂戸市	坂戸市との連携協力推進により、城山中学校・若宮中学校合同吹奏楽部の練習のため、城西大学への施設貸出依頼があった。	50	0	城西大学への興味・関心の喚起、知名度向上		城山中学校・若宮中学校合同吹奏楽部がコンクールで賞を獲った。中学生と本学吹奏楽部とのコラボ演奏が今後実現する話が浮上した。「TJUP音楽を楽しもう」に同中学生が動員してくれた。	清光会館の大規模工事のため、清光ホールが使用できず、17号館、水田三喜男記念館など日替わりで施設への移動が必要となった。
129	地域連携センター	2023/8/26	奈良博恵	産学官連携、産学連携、官学連携、小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	TJUP介護福祉体験教室	毛呂山町、鳩山町、鶴ヶ島市、坂戸市	毛呂山町、鳩山町、鶴ヶ島市、坂戸市	日本医療科学大学の教員、学生のファシリテートのもとで、TJUP会員校の学生が福祉機器等の使用方法について参加小学生に指導体験を行う。併せて介護予防運動について、学び実践する。	44	1	会員校学生間の交流を図ると共に、地域小学生との交流を通じて、社会性、コミュニケーション力を培う機会とする。			
130	地域連携センター	2023/9/1	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携、公開講座等、地域へ向けた講座;	TJUP主催公開講座「武蔵国の19校を通じて埼玉を知る」2023	坂戸市ほか22市町	19大学等、23自治体、17事業者等	埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）で実施している公開講座で、今年度は今昔関わらず埼玉県にゆかりのある偉人やスゴい人にスポットを当てる「埼玉のスゴ偉人」、災害に対して事前に備えておくとい知識・災害発生時の正しい行動・被災時により良い生活を送るための知識をテーマとする「災害にソナエル」の2テーマにて開催した。城西大学からは、現代政策学部の飯塚智規准教授「クロスロードゲームで学ぶ、私がやるべき災害対応」を9月1日に実施した。	15	1			グループワークを行ったが、参加者がお互いを尊重しあって話し合いができたこと。	参加者数が思うように伸びず、集客が課題。

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
131	地域連携センター	2023/10/4～ 2023/10/31	奈良 博恵	公開講座等、地域へ向けた講座	第42回城西大学公開講座「～元気で現代社会を生きぬくために～」	埼玉県	協賛：埼玉まなびいプロジェクト 後援：坂戸市・鶴ヶ島市・日高市・川越市・飯能市・東松山市・毛呂山町・越生町・鳩山町・川島町の各教育委員会、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）、埼玉新聞社	本学の公開講座は、埼玉県の「埼玉まなびいプロジェクト協賛事業」であり、教育研究の成果を広く地域に開放し、高度化、多様化する地域住民の学習意欲と地域社会のニーズに応えることを目的とする。 2023年度は、4回にわたって以下のテーマで開催された。 ①10月4日（水）運動で身体も脳も健康に！ 講演：石倉恵介（経営学部教授） ②10月17日（火）口腔ケアから健康を考える 講演：井上直子（薬学部准教授） ③10月25日（水）生成AIと協創する社会 講演：高橋達（経済学部助教） ④10月31日（火）老いも若きもスキンケアで健康な肌を 講演：高木豊（薬学部教授）	申込者199 (延べ571) (10月4日：149、10月17日：141、10月25日：143、10月31日：138)	4	様々な専門性を持つ講演者により、多様性に富む学びを地域住民に深めることができた。	各回ごとにアンケートを実施しており、地域住民の生の声を講師は得ることができ、フィードバックにも繋がる。	多様性に富んだ講座を実施した。新型コロナウイルス感染症が5類となり、199名の登録受講者を動員したことは、地域住民の生活が戻りつつあることを示している。	自家用車でのお来場が多く、有料にしているが、学生優先の学生駐車場が満杯となってしまった。臨時駐車場を開放し、気温が高い中、スタッフが誘導の為、立つこととなった。
132	地域連携センター 機能別消防団	2023/10/5	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携	機能別消防団×剣道部 普通救命講習	坂戸市	坂戸市消防団	城西大学の機能別団員と剣道部員合計15名が参加し、倒れている人を発見した時の対応（意識確認、周りの人に助けを求めて119番通報やAEDを持ってきてもらうなど）や、胸骨圧迫、AEDの取り扱いについて坂戸市消防団女性部の方々に教わった。	28	15	大学生機能別団員としてだけでなく、普段の生活で突然起こるAEDの使用方法や救命方法について正しい知識を身につけることができる。	倒れている人を発見した時の対応や、胸骨圧迫、AEDの取り扱いについて実践を交え知識と技術を習得することができた。	最初から最後まで真剣に取り組んでいた。	本学の機能別団員の総数に対し、出席者が少なかったこと。
133	地域連携センター	2023/10/7	奈良 博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	多文化交流フェスティバルinさかど	坂戸市	坂戸市	来場者が楽しみながら世界の文化と触れられる場を設けることで、異文化に対する関心や理解を深めることを目的に開催。本事業は、令和5年度坂戸市提案型協働事業の一環として、坂戸市および一般社団法人レク寺子屋が共催で実施。	多数	6	多文化共生の理解、国際交流感覚、来場者への臨機対応、チームワーク力	コミュニケーション力、チームワーク力	韓国すごろく「ユンノリ」体験のサポートを行い、韓国の文化を多くの来場者に知ってもらうことができた。児童が多かったが、学生はコミュニケーション能力、適応能力に長けており、終始楽しく活動を行うことができた。	当日の学生の欠席者が4名いた（連絡あり）。来場者が多く、休憩時間をとるのが難しかった。
134	地域連携センター	2023/10/28	奈良博恵	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	TJUP教育支援文化講座「音楽を楽しもう2023」	坂戸市など23自治体	坂戸市	TJUP特定地域教育委員会との連携による教育支援企画講座として、TJUP特定地域内の中学生を主対象に「音楽鑑賞」という学習機会を提供した。	91	0	芸術鑑賞の学習機会の提供とTJUPへの興味・関心の喚起、知名度向上	県立坂戸高校ギター部の成果発表の場にもなった。	中学生への告知方法	
135	地域連携センター	2023/10/28	奈良博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	TJUP日本スリーデーマーチに向けた「東松山市クリーン活動」	東松山市	東松山市	TJUPの会員自治体である東松山市のクリーン活動を行いながら、参加者同士の交流を深め、学生にとっては今後の大学生活におけるネットワークの構築に繋がる機会とする。自治体を挙げて行われる国際的なイベントに向けた準備に参加することで、TJUPの活動を地域へPRするとともに会員自治体との更なる協力的体制強化に繋げることを目的とする。	62	4	参加者同士の交流を深め、学生にとっては今後の大学生活におけるネットワークの構築にする。TJUPへの興味・関心の喚起、知名度向上。	TJUPの会員校学生、教職員、自治体会員職員、事業者等会員社員が分け隔てなくグループに配置されたので、参加者同士は和やかな雰囲気での交流ができた。		
136	地域連携センター	2023/10/28	奈良博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	TJUP会員大学対抗モルック競技大会	坂戸市ほか22市町	19大学等、23自治体、17事業者等	モルックを通してTJUP会員大学相互の学生間交流活動を図る。また、モルック協会指導者によるルールや実技を習得する。	28	4	学生間交流、モルックについてのルールの習得。	参加者同士の交流を深め、コミュニケーション力を培う。モルックの基本的なルールと楽しみ方、競技のこつなどを学んだ。	互いに他チームにも声援を送り合うなど、学生間交流が図られた。また、モルックの魅力を知ることができた。	モルックという日本ではまだ浸透していない競技なので、参加者を募るが難しかった。
137	地域連携センター	2023/11/3	奈良 博恵	産学官連携、産学連携、官学連携;授業(学外で調査・活動);授業(地域の学習・研究);クラブ・サークル等の活動;研究;	2023地域連携活動発表会	埼玉県内、東京都千代田区、ほか		2022年度後期～2023年度前期の間に城西大学の学生が関わった、地域プロジェクト、イベント等への参加、ボランティア活動、商品開発等をポスターにまとめ、学生の学びの場や地域住民との交流の機会として開催した。発表会は11月3日（金）とし、高麗祭と同時開催とした。パネル展示は10月30日（月）～12月22日（金）まで行った。	多数	30名以上	自身の活動を顧み、まとめ、発表することで貴重な学びのアウトプットの場となる。	想定される学びの内容のほか、様々な年代の地域の方々へ自身の活動をわかるように説明することを工夫できたことや、異なる視点の意見を聞き、新しい発見があった。	アンケートの回答率がとても低く、次回に向け改善の余地がある。	
138	地域連携センター	2023/11/7	奈良 博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	TJUP教育連携懇談会【TJUP教育連携フォーラム2023】	埼玉県	19大学等、23自治体、17事業者等	昨年度の各教育委員会の支援要望を踏まえて、第一部「外国籍児童生徒への日本語学習支援事業【東松山モデル】報告会」、第二部「【クラブ活動地域移行】活性化対象地域の市・町における取り組みについての情報交換会」のテーマで行った。二部構成により、地域における義務教育に関するフォーラムを通じて、大学の社会的役割を果たし、産官学連携による地域貢献を展開した。	26	0	産官学の意見交換により、地域課題に対する新たな展開を創り出すことが想定される。	産官学それぞれの立場から情報共有を行い、各現場に活かす今後のヒントに繋がった。	地域課題の事例に基づき説明や紹介があり、産官学の一堂が意見交換を行えたこと。出席者同士の交流を深めることができた。	第一部の外国籍の取り組みについて、関心を持つ自治体もあったが、実際に取り組みたいという連絡は今のところない。TJUPがまだ十分に浸透していないため、参加者数が伸び悩んだこと。
139	地域連携センター	2023/11/8	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携	毛呂山町長と現代政策学部生との意見交換会	毛呂山町	毛呂山町	毛呂山町では、2025年から10か年に渡る「第六次毛呂山町総合振興計画」の策定に向けた意見聴取を行っており、特に、若い世代から意見を聴取している。その一環で、通学や生活で毛呂山町を利用する城西大学生との意見交換の希望があり、「地域活性化政策～交通・観光まちづくり」をテーマに学生が主体となって地域活性化プロジェクトを企画・実施している、現代政策学部の庭田ゼミの2年生から4年生の学生と、現代政策学部で専門科目「地域イノベーション」科目を履修している学生の合計38名が出席して毛呂山町長との意見交換を行った。	43	38	首長と意見交換することで、大学の近隣地域を見つめなおし、まちづくりを自分事としてとらえ発言することができる。	首長と意見交換することで、大学の近隣地域を見つめなおし、まちづくりを自分事としてとらえ発言することができる。	出席した学生は真剣に意見交換に臨んでいたこと。	時間の関係で、発言で来た学生数が出席者数に比較して少なかった。もっといろいろな学生の発言機会が提供できればなおよかった。
140	地域連携センター	2023/12/14	渡辺沙織	産学官連携、産学連携、官学連携	第6回「北坂戸団地音楽ライブ」を開催～みんなであつがる多拠点パブリックビューイング～	坂戸市	UR都市機構	UR都市機構が企画・運営している「北坂戸音楽ライブ！」のパブリックビューイングを北坂戸にぎわいサロンで実施した。	3	0				毎回、訪れる人が少なく、集客が課題。
141	地域連携センター 機能別消防団	2023/12/18	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携	避難所運営研修会	坂戸市	坂戸市消防団	大学生機能別消防団員および機能別消防団に興味のある見学者27名が参加し、坂戸市役所防災安全課の職員を講師に迎え、自分の住んでいる地域にどのような災害が起こるかを知っておく必要性、避難所が設置される際の機能別団員の役割について講演の後、避難所で使用するダンボールベッドとテントの組み立ての実習を行いました。実習は、見学の学生も一緒に参加した。	32	27	大規模災害時に最も想定される、大学生機能別消防団員の役割である、避難所運営に関する知識を身につけることができる。	避難所運営に関する知識と実際に避難所で使用するベッド等の組み立てだけでなく、防災に関する講話を受講し、より災害を自分事としてとらえることができた。	機能別消防団に興味のある学生が見学に来てくれたこと。	
142	地域連携センター 機能別消防団	2024/1/7	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携	令和6年消防出初め式	坂戸市、鶴ヶ島市	坂戸・鶴ヶ島消防組合	4年ぶりの坂戸・鶴ヶ島消防組合の令和6年消防出初め式に大学生機能別団員の学生6名が参加し、開会式で立派に行進、参列するかわら、ゆるキャラのサポートなどの業務を行うなど、運営スタッフとして活躍し、開会式終了後は、ロープワーク体験の受付やスタンブラリー、ゆるキャラとの写真撮影の列の管理やアテンドなどを担当した。	多数	6	多くの地域住民との交流を通じて、多世代との関わり方を学ぶことができる。	特に未就学児や小学生の対応を通じて、子どもの目線に立った対応を学び実践できた。	4年ぶりの出初式に大学生機能別団員が出席できたこと。	在籍人数に対して、出席できた団員がとても少なかったこと。
143	地域連携センター	2024/1/23	奈良博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	脱炭素まちづくりカレッジinひだか	日高市	日高市	地域の大学、企業を対象に、カードゲーム「脱炭素まちづくりPlay」を通じてゼロカーボンシティひだかをPRするとともに、脱炭素に対する意識啓発を図る人材育成研修イベント		2	脱炭素に対する意識啓発と地域の大学・企業・日高市の人材交流			
144	地域連携センター	2024/1/30	渡辺 沙織	産学官連携、産学連携、官学連携	坂戸市まちづくりワークショップ	坂戸市	坂戸市	坂戸市では現在、将来のまちづくりの方針を定める次期「都市計画マスタープラン」の策定と、将来の人口減少や少子高齢化を見据え、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能の誘導を推進するための計画である「立地適正化計画」の見直しのため、大学生の意見やアイデアを取り入れることを目的として、坂戸市が主催で実施。現代政策学部、経営学部、薬学部の学生が合計で37名参加した。	45	37	通学、生活している坂戸市を見つめなおし、若者ならではの視点での意見を坂戸市へ提案できる。	限られた時間で、指定のテーマに沿って他学部の学生と協働して、提案を作り発表することで、違った価値観をもつ人同士の意見の共通点を見つめたとめる難しさを学ぶことができたと考ええる。	欠席者が多く、当初予定していた学生数から16名も減ってしまい、先方に急な対応をお願いしなくてはならなかった。	
145	地域連携センター	2024/1/31	奈良 博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	東秩父村と相互連携に関する基本協定締結	東秩父村	東秩父村	東秩父村と相互連携に関する基本協定を締結し、包括的な連携のもと、産業、文化、学術等の分野で相互に協力し、地域の発展と人材の育成に寄与する。	14	0	大学の有する知的資源と東秩父村の環境資源を活かした事業の立案・交流	学生が生きた教材として地域で活動できる。	東秩父村の課題を教員に投げかけ、3名の教員よりゼミ活動で東秩父村の課題に取り組みたいと打診があった。	
146	地域連携センター	2024/2/17	奈良 博恵	産学官連携、産学連携、官学連携	TJUP教育支援共催事業「親子食育講座 バナナうんちで元気な子！～生活リズムを整えよう～」	和光市	和光市	TJUP活性化対象地域内の自治体(和光市)との連携により、主として小学生低学年とその保護者を対象とした「親子食育講座」を開講することで、活性化対象地域における教育支援事業を展開するとともにTJUPへの興味・関心の喚起、知名度向上を目的とする。	27	0	便秘が深刻化している実態を紹介し、食生活や生活習慣を整える重要性を理解する機会を持ち、TJUPの知名度向上にも繋げる。	活性化対象地域内の子どもたちの知的好奇心を刺激し、興味と経験を育む。	子供が飽きずに楽しめる工夫があった。子供と大人で違う内容の講座がありそれぞれに学ぶことができた。	講義の際、講演者の声が小さくて聞き取りづらかったという意見があった。
147	地域連携センター	2024/2/21	奈良 博恵	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	毛呂山町光山小学校との連携事業（学習交流事業（理科及び図画工作））	毛呂山町	毛呂山町	地域の学習交流事業として毛呂山町立光山小学校の6年生が城西大学を見学。理学部化学科と水田美術館での学びの体験プログラムに参加した。	40	6	地元の児童と交流することで、学生と教職員、地域がともに育ちあえる環境を目指すことができる。城西大学への興味・関心の喚起、知名度向上。	雨の中、本学へ37名（内特別支援学級1名）の児童が来学したが、事故もなく無事に終わった。学内では、化学科、美術館、入試課、地域連携センターの部署の連携で行った事業だが、当日スムーズに運営ができた。	小学校に帰る時間が決まっているので、なるべく児童の移動を少なくすることが重要（今回は全てうまくいった）。	

No.	所属	実施日	活動の代表者	活動の種別	活動・事業の名称	活動地域	連携自治体、団体等	連携概要	参加人数 (全体)	参加人数 (城西生)	この事業で想定される学び、成果	得られた学び、成果	良かった点	課題、改善点
148	地域連携センター	2024/3/23	高尾浩一	産学官連携、産学連携、官学連携、小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	TJUP報告会「TJUPランド〜こどもフェスタ〜」	坂戸市、鶴ヶ島市など	坂戸市など23自治体	T1年間の活動を地域に向け報告する報告会を実施するにあたり、今年度は、TJUPビジョンに基づき、地元で生きていく若い世代（主にキッズ世代）向けに「楽しく、学ぶ、体験する」をテーマとしたキッズイベントを開催した。各大学の特色を活かした「わくわく教室」「わくわくワークショップ」「ファミリーコンサート」の開催を通して、地域の子どもへの学び支援およびTJUPの認知度アップを目的とした。全会員に参加を呼びかけ会員一丸となった学びの場提供を目指した。	550	0				
149	地域連携センター	2024/7/22～2023/8/25	渡辺 沙織	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	鶴っ子サマースクール×大学生WIN-WIN事業	鶴ヶ島市	鶴ヶ島市教育委員会	鶴ヶ島市の児童・生徒が学習意欲の向上や学習習慣の定着、「確かな学力」の育成を目指し、夏季休暇中の自主学習をする際に発生した疑問点や誤答を解消するため、大学生が学習指導補助員として鶴ヶ島市内小中学校で指導・支援を行う。大学生にとっては、児童生徒への指導を通じて、貴重な経験を積めるほか、教職課程を履修している学生にとっては、現場経験を積むことができるよい機会となる。	828	1	児童生徒への指導を通じて、貴重な経験を積めるほか、教職課程を履修している学生にとっては、現場経験を積むことができるよい機会となる。	学生自身が教育現場で学習指導補助員として疑問質問に答えたりすることで、自身の成長につながったり、将来像をより具体的に描くことができたりしたよい機会となった。	児童・生徒にとって夏休みの宿題や自主学習の疑問が年の近い大学生に気軽に質問し解消できる環境ができ、大学生は企業な現場体験を積むことができ、小学校中学校の教員にとっては働き方改革にもつながり、それぞれにおいてWIN-WINな事業であった。	試験期間と重複する機関が一部あり、次年度以降開催時期について微調整が必要である。
150	広報課	2023/8/26	鈴木昭男	産学官連携、産学連携、官学連携	浦和美園健康イベント	さいたま市緑区	イオンリテール	イオンモール浦和美園店内にて、来店した家族連れに対し「健幸」を実感してもらうための産官学連携イベントを実施。本学陸上部・JAWSのアスリートによる「運動」のワンポイントアドバイスを通して地域住民の健康増進に貢献。	3000	5	地域住民との触れ合い、コミュニケーションの取り方	地域住民との触れ合い、コミュニケーションの取り方	城西の特徴であるスポーツを通じて地域貢献ができた点	スポーツをするにはスペース確保が難点だった
151	化石ギャラリー	2023/7/6～2023/7/19	宮田真也	小・中・高校との連携、小・中・高校へ向けた活動	麹町小学校第4学年 図工 化石ギャラリー見学および化石割り体験	東京都千代田区	千代田区立麹町小学校	毎年恒例となっている麹町小学校への出前講座また、本年度から化石ギャラリー見学も再開しました。7月6、7、12は化石ギャラリーと恐竜の骨格のスケッチ	約100名（先方の教職員含む）	0				
152	化石ギャラリー	2023/10/22	宮田真也	公開講座等、地域へ向けた講座	ハチラボで学ぶ楽しい地学教室	東京都渋谷区	NPO法人地学オリンピック日本委員会	NPO法人地学オリンピック日本委員会主催の東京都渋谷区で開催された普及活動に化石割講座の講師として活動してきました	20	0				
153	化石ギャラリー	2023/10/28	宮田真也	公開講座等、地域へ向けた講座	善通寺市小学校STEAMプログラム化石ロボットで学ぶSTEAM	香川県善通寺市	善通寺市	工学系と、古生物学系の技術者や研究者が善通寺市の小学生を対象とした理科教育プログラムを行い、宮田は古生物の講座を担当	100	0				
154	化石ギャラリー	2024/3/23	宮田真也	公開講座等、地域へ向けた講座	埼玉東上地域大学教育プラットフォーム わくわく化石教室	坂戸市他	埼玉東上地域大学教育プラットフォーム	モササウルスの歯の化石を用いた化石観察体験学習を行った	45人くらい	0				